

アセンション BOOK 10

天の川銀河創造の秘密 3

2014年8月

天の川銀河創造の秘密

3

時と空間を超えるフェニックス号



時と空間を超えるフェニックス号 目次

- 第1章 アルゴ船座の秘密
- 第2章 鳳凰の光とフェニックス号
- 第3章 過去のリラ星で人々を救出する
- 第4章 リラ星のクリスタルの塔
- 第5章 未来のアルクツールス星の統合
- 第6章 アシュタールのユートピアとレプテリアン
- 第7章 惑星型宇宙船の動力源オリオン座
- 第8章 フェアリーが生れる場所
- 第9章 動物達の潜在意識が集まる塔
- 第10章 星々に光を送るプリズムと愛を送る星
- 第11章 叡智ある種族を生み出すメテウス

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI

yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ

<http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 アルゴ船座の秘密



PART1 アルゴ船座の秘密

私達は念願のアルゴ船をモチーフにした南天最大の星座に入る事になりました。現在アルゴ船座というのは、あまりにも大きな星座なので、船の各部分を表す「竜骨座」「帆座」「とも座」「らしんばん座」の4つの星座に分けられています。

アルゴ船というのは有名なギリシア神話の一つで、イオールコスの英雄イアーソーンが、黄金の羊の毛皮を求める旅のために建造された巨大な船です。その乗組員には英雄ヘラクレス(アウディケウス)やふたご座のもととなったカストールとポリュデウケース、医者のアスクレピオス達が参加したとされる神話です。

私達は、アウディケウス達を従えてカノーブス星に入ります。この星座はいったいどのような役割を持っているのか、とても興味があります。私達が、カノーブス星に入ると、カノーブス

はとても賑やかな港町のように見えます。
今までいくつも星を回ってきましたが、人々が活気を持って活動している星は初めてです。
しかも港町でいくつもの船が泊まって、荷物の出し入れを行っています。

カノーブス星のマスターを呼び出すと、ちょっと小太りの商人風の男性が出てきます。
私は挨拶を行うと、このアルゴー船座の状況について尋ねました。
マスターは、少しの小競り合いや日常的なトラブルはあるけれどおおむね良好である様子を伝えてきます。

私がこの星の役割について尋ねると、このアルゴー船座に属する星々のいくつかは、交易を行っているとの事です。
この星座の役割は、様々な星に必要な原材料や食物などを送り届ける事のようにです。
スピリチュアル・レベルにおいても、星々の創造のための材料や星の生命となるマザークリスタルなども彼らが必要な場所に運ぶようです。

そして、このアルゴー船座の周辺にある星々、カノーブス星、マルカブ星、などはそれらの資源を運ぶ巨大な星型宇宙船である事も教えてくれました。

私は、マザークリスタルを運ぶという、彼の言葉に興味を持ちました。

「あなた方が運ぶマザークリスタルは、どこで作られるのですか？」と尋ねます。
カノーブス星のマスターは、このアルゴー船座に、マザークリスタルやそのほかのクリスタルを育て貯蔵するための星がある事を教えてくれました。

私達は、マスターと共にアルゴ船座の中心近くにある星を尋ねます。

それは、ムーリフ星、ナオス星、アルワズン星とムーリフ下にある星のようです。

私達は、その中でも中心的な活動を行うムーリフ星へと降り立ちました。

PART2 マザークリスタルを生き育てる星とユニオン・クリスタル

私達が降り立ってきた様子を見ていたホビット達が、私達を迎えに来てくれました。

そして、森を抜けて秘密の扉の中に案内してくれました。

通路は地下に続き、私達も降りていくと、ところどころにクリスタルを育てている貯蔵庫のような場所が見えてきます。

それぞれの場所によって、クリスタルの育てている大きさや色、特質などが異なっているようです。

ホビットが言うには、この地下の奥底に巨大なエネルギーがあり、その光がクリスタルを活性化して育てているようです。

私は、ホビットに私達ができる事や必要な事はありませんかと尋ねると、ホビットはうれしそうに、もっと大きなクリスタルの育成場所（貯蔵庫）がほしいと答えました。

そして、星々の次元が、現在どんどん高くなってきているので、それに対応したレベルのクリスタルを育てる必要があるので、クリスタルを育成している星々の次元を上げて、さらに強固でパワフルな育成場所を作る必要

があるとの事でした。

私達は、メンバーと共に他の3つの星もまわり、クリスタルの育成場所（貯蔵庫）を強化するとともに、4つの星のクリスタル・ドームのマザークリスタルをパワーアップしていきます。

このクリスタルの育成をする星はそれぞれに特徴があり、それぞれのマスターの様子が異なっています。

私達は、4つの星の準備ができれば、それぞれの星から上の次元に向かってエネルギーを高めていきます。

4つの星の上の次元に、クリスタルを育成する星々のマスターが出そろいます。

ムーリフ星のマスターは黄色い光を持ったマスターで、ここで作られるクリスタルは、大地のエネルギーを支える働きを持つクリスタルのようです。

アルワズン星のマスターは、オレンジ色の光を持ち、火、太陽、スピリットのエネルギーを持つマスターです。

ナオス星のマスターは、青い光のマスターです。

彼は風のエネルギーに満ちていて、伝達やネットワークの広がりなど、成長していくエネルギーと関係があるクリスタルを作っているようです。

そしてムーリフの斜め下の星から来てくれたマスターは、白い光を持つマスターです。その光は、水のエネルギーを保ち、癒しや浄化の力をクリスタルに与えます。

4つの星の上の次元が一つにまじりあい、そ

のエネルギーが融合を始め、新たな次元が光と共に生まれ始めます。

てんびん座から、新しい次元を生み出すための空間と時間の光が送り込まれると、新たなクリスタルの育成のための次元が広がっていきます。

そしてユニバーサル・パレスも、この星々の上空から、この新たな次元に向かって特別な光を送り始めました。

光がスパークするように輝き、その中から今までに見た事もないようなすばらしい光に満ちた「ユニオン・クリスタル」が生まれてきました。

4大エレメントを統括するエレメント・マスター達も上空から現れます。

彼らは、4大エレメントの光を、新しく生まれたユニオン・クリスタルに注ぎ込みます。クリスタルは、今まで以上に輝き始め、虹色の光に満たされると共に、その光を、各星のクリスタル・マスターにつなげていきます。

新たな、ユニオン・クリスタルの誕生です。ユニオン・クリスタルは、星々の生命ともいえるマザークリスタルを生み出すためのクリスタルです。

私達の活動がさらに活発になる事により、星の生命を保つための、マザークリスタルをたくさん準備する必要性が生まれてきたのです。

PART3 アルゴー船座の次元上昇と騎士団

私達は、アルゴー船座のクリスタルを育成する星々の次元上昇と共に、他の星々も合わせ

て次元上昇していく事にしました。

アルゴ船座は、現在は 4 つの星座に分かれています。本来同じ目的のために存在しているため、その星同士の関係はとてもしっかりとしたものがあります。

私達は、マスターや騎士団を各星に配置し、マザークリスタルに光を集め、星を活性化していきます。

そして、ユニバーサル・パレスの光を星座の上空から、大きな広がりを持って放射します。するとアルゴ船座に属する星々が輝き始め、さらにパワフルになってきます。

アルゴ船の各星々が次元上昇する事によって、彼らの交易もさらに便利になり、今まででいけなかった次元にも入り、様々なものを各地へと運べるようになるようです。

カーブスのマスターはとても大喜びです。しかし、私も少し気になるところがあります。宇宙の様々な場所に旅するには、騎士団などの護衛の姿があまり見られない事です。私は、マスターに、アルゴ船の交易や大切なものを運ぶ時に、宇宙海賊達やならず者達に出会う事はありませんかと尋ねました。

マスターは、少し困ったような顔をして、少しばかりの騎士団はいるのですが、それでも時々海賊達に襲われ、大切な物資やクリスタル達が奪われる事があると答えました。

それは大変です。

せっかくマスター達が光を満たしてくれたクリスタル達が奪われてしまったら、大切な星々の生命が生まれる事ができません。

私は、マスターにパワフルな騎士団を生み出す事を提唱しました。

マスターは、大喜びです。

騎士団のマスターに出てきてもらい、このアルゴー船座を守るスタードラゴンを呼び出します。

そして神聖なる魔法使いにもお願いして、魔法使いとドラゴンによる騎士団を生み出す事にしました。

創造主の系譜にいるゴッデス達にも協力してもらい、新種族の育成のための光を作り出します。

大きな光の中から、輝くドラゴンと鎧に身を固めた騎士や魔法使いが現れます。

周りで見えていた、アルゴー船座のマスター達から大きな歓声が上がります。

そして次々と、光の中からドラゴンと勇壮な騎士と魔法使い達が現れてきます。

これで、アルゴー星の船団が、宇宙海賊に襲われる事なく自分達の仕事を行う事ができるようになりました。

アルゴー船座の人達も安心して活動できるようになります。

PART4 天の川銀河連合の完成

アルゴー船座が次元上昇する事により、私達が行っていた「天の川銀河連合」も大きな進展を迎える事になりました。

「天の川銀河連合」というのは、天の川銀河に属する各星座のマスターや騎士団達によって作られている連合体で、お互いを守り成長させるための連合です。

代表はもちろん TAKESHI なのですが、ヘラクレス座のアウディケウスやいて座とケ

ンタウルス座のケンタウルス騎士団、しし座のレグルス騎士団、ペガサス座のペガサス騎士団、おうし座の騎士団など各星座の騎士団はもちろん、セントジャーメインやマリーンなどの魔法使い、女神アテネや天照グループの女神やマスター達など、この天の川銀河の多くの星座の騎士団とマスター達が参加しています。

私達は、南天最大の「アルゴ船座」を次元上昇する事により、黄道 12 星座のラインとミルキーウェイラインの 2 つのラインをしっかりとつなぎ、天の川銀河自体を大きく次元上昇させていく事ができるようになりました。

私達はすべての騎士団と共に、天の川銀河の 2 つのラインを走り、光でつなげていきます。多くの騎士団、ドラゴン、マスター達が光となって駆け抜けた後には、大きな光の通路が出来上がり、光の存在達はその通路を使って自由に他の星座や星々に行く事ができるようになります。

天の川銀河がまた大きな光の結束と共に一つになっていきます。

第2章 鳳凰の光とフェニックス号



PART1 新たな巨大宇宙船の建設

私達は、次の星のツアーの時もアルゴ船座に呼ばれました。

前回お会いしたマスターも、たくさんの船団やドラゴン騎士団に囲まれてうれしそうです。

マスターが私達に大切なお願いがある事をつたえてきました。

それは、巨大なマザークリスタルを運ぶ事ができる巨大な宇宙船を作ってほしいというお願いでした。

確かに、星の生命となるマザークリスタルは巨大です。

しかも天の川銀河を超えて、他の銀河や星団にも、そのクリスタルを運ぶ必要があるので、巨大なうえに高速でいくつもの次元を超えていけるような特殊な宇宙船が必要なようです。

私達は、この仕事をまかせられるのはマスタ

ーAのグループしかいませんので、まず彼ら
を呼び出します。

そして、私達のメンバーでも宇宙船や宇宙工
学に詳しいメンバー達を呼び出します。

オリオン座のベラトリックスやコロボック
ルの特殊工作隊、大熊座のアールベローの技
術者達が現れます。

他の騎士団やマスター、魔法使いもお手伝い
です。

もちろんアシュタールのメンバーやゴッデ
ス達も協力して作業にかかり始めました。

おそらくこの巨大宇宙船の建造はすでに計
画ができていたようで、マスターAを中心に
宇宙船の形がどんどんでき始めています。
魔法の力と宇宙工学の技術によって大型の
船体が出来上がっていきます。

マスターAが、宇宙船ができていくのを見て
いる私達に大切な仕事を頼みたいと行って
きました。

それは、ほうおう座に行って、鳳凰のマスタ
ーにあってきてくれという事でした。

これは、この宇宙船の動力とも大きな関係
を持っている事のようにです。

PART2 喜びと共に生きる鳳凰のマスター

私達は、新たなユニオン・クリスタルを作っ
た次元からさらに高い次元に上がり、そこか
らほうおう座のマスターに呼びかけて私達
を導いてもらいます。

私達は、鳳凰の光に吸い込まれるように、上
の次元へと上がっていきます。

白い雲の上を抜けていくように上がると、美

しい鮮やかな色の大きな羽がいくつも折り重なって見える場所の上に、美しいマスターが立っています。

私達はマスターにお会いすると挨拶を行い、鳳凰の世界へと導いてもらう事をお願いしました。

マスターは、光となって私達のハートの中に飛び込んでくると、そこに美しい光の世界が広がります。

「皆さんの心は、すべてこの鳳凰の世界につながっています。

たとえどれほどの苦しみや悲しみを背負っていようとも、皆さんは鳳凰の羽から生まれ、また鳳凰の羽に戻っていきます。

あなた方にとってみれば、鳳凰の世界にたどり着くためには、大変な長い道のりがあるかのように思えるでしょうが、それは私達にしてみれば、一瞬の事なのです。

永遠も現在も、私達にとっては同じものなのです。

そして、この地球もこの宇宙も、皆さんと同じように、鳳凰の羽から生まれ鳳凰の羽に戻っていきます。」

鳳凰のマスターは私の前に、1枚の大きな羽を広げます。

それは絵巻物のように、様々な絵が描かれており、天使やマスター、ドラゴン達が活躍している姿が見えます。

よく見ると、その各所に私達の姿も描かれているようです。

「あなたのハートの中にある鳳凰の羽を輝かせてください。

そうするとあなたのハートの中に新しい人生の道が生まれます。

多くの存在達と共に歩む姿、行うべき事、そして新たに生まれてくる事、それらすべてにエネルギーが吹き込まれ、新たな生命として目覚めてくるのです。」

鳳凰のマスターは、私達の心をさらに光で輝かせ、鳳凰の羽が1人1人の心の中で広がっていきます。

さらに鳳凰のマスターは、クリスタルでできたような光の階段を上っていき、その先にある扉を開きます。

そこは高次元の神殿である「鳳凰の間」に続きます。

黄金色に輝く光の中で鳳凰のマスター達が優雅に飛び交い遊んでいます。

輝くマスターが、私達を見るとうれしそうに近寄ってきます。

「すべての心は遊ぶ心、ユートピアの創造から始まります。

根源の光も、世界を創造する事を大きな喜びとしています。

すべてのものは、遊び心から始まったのです。遊び心からすべてのエネルギーが始まったのです。

知識にとらわれてしまい、遊ぶ心や流れに身をゆだねる心を失ってしまえば、本来の道から足を踏み外し、窮屈な思いをする事になってしまいます。

どうか私達と共に、導かれるままに、この世界を楽しみ、光の仕事をエンジョイしてください。

そして人生を喜びと共にクリエイトしていきましょう。」

私達は、自分達の心が様々な捕らわれから解

放されていく事を感じます。

穏やかで軽やかで美しい光と共に生まれ変わっていくようです。

私達は、鳳凰のマスターに新しい宇宙船の事を相談しました。

新しい宇宙船には、鳳凰のマスター達の光が必要なようです。

鳳凰のマスターは、美しく輝く光を、アルゴ一船座の4つのエレメント・クリスタルとその上位にあるホーリー・クリスタルを通して新しい宇宙船に送っていきます。

私達は、鳳凰のマスターの光に乗って、アルゴ一船座に戻っていきます

PART3 新しい宇宙船「フェニックス号」

私達が、アルゴ一船座のカノープス星に戻ると、多くの人達が歓声を上げて出迎えてくれます。

皆さん、新しい巨大宇宙船の建造に興奮しているようです。

鳳凰のマスターの光が、宇宙船を貫くと、宇宙船の形も、両側に大きな羽を広げた鳳凰の形に変わり、その機体もキラキラと虹色に輝いていきます。

私達は、カノープス星のマスターに船の様子を聞くと、マスターはとても満足した様子でにこにこ笑っています。

これで彼らも、きっと今以上に荷物を運ぶ事ができる事でしょう。

私は、この船に乗ってみました。

驚くほど広く快適な空間です。

きっとこの宇宙の中でも最新型の船のよう

です。

私はこの船の船長は決まっているのですか、と尋ねると、すぐにきちんと制服を着たマスターが現れ、自分はアシュタールのグループから派遣されてきた船長であるといいました。

アルゴ船座の荷物を運ぶ船に、アシュタールの船長というのも少し不思議だな、と思いつつ、私達はこの宇宙船の初飛行を行う事にしました。

天の川銀河連合の騎士団やマスター達を乗せ、新型宇宙船はとび立ちます。

大きな音も立てる事なく、スムーズに滑り出すように宇宙空間へと飛び出していきます。宇宙船は、天の川銀河をゆっくりと回っていきます。

自分達の星座が近づいてくると、皆さん大騒ぎです。

「あれが俺達の星座だよ、美しいだろう！」とか「みんな見ているかな。」と喋っている騎士団達もいます。

天の川銀河を一巡りすると、宇宙船はさらに加速して天の川銀河を飛び越え、マゼラン星雲へと向かいます。

私も、まだマゼラン星雲は良く知らないのですが、中心となる星に降り立ち、この星のマスターに挨拶をします。

マゼラン星雲のマスター達は、突然大きな宇宙船が降りてきたのでびっくりしています。

私達は次にアンドロメダ銀河へと向かいますが、あっという間にアンドロメダ銀河に到着です。

アンドロメダ銀河のアルスター星では、私

達が来る事が分かっていたようで、皆さん大騒ぎをしながら、出迎えてくれます。

さらに私達はオリオン星雲を回って、この単一宇宙であるユニバースを抜けて、多次元宇宙へと入ります。

これだけの人々をのせて軽やかに飛びたつ様はまさに伝説の鳥「鳳凰」そのものです。

船はさらに高次の光の中をはしり抜け、多次元宇宙の最高次元であるマルチバースの最高評議会へと入りました。

最高評議会のメンバー達に、この宇宙船を見てもらいます。

皆さん喜んでこの宇宙船を見て回りながら、マスター達の光で宇宙船をさらに輝くものとして生きます。

評議会のマスター達は、常にこの宇宙船と連絡が取れるように、宇宙船の中に、最高評議会との連絡を取るための部屋を作る事にしたようです。

私は、今までこの宇宙船は、アルゴ船座の人達が、荷物の運搬に使うのだと思っていましたが、どうもそうではないような雰囲気です。

船の装置もすごそうだし、何と言っても豪華で格調高いです。

私達は、大いなる宇宙を一回りして、天の川銀河に帰ってきました。

船長が、私にこの船の名前は、なんとしますか、と聞いてきました。

私は、「アルゴ船でいいんじゃないの！」と言ったら、船長が少し困った顔をして「アルゴ船はもうすでにありますからだめです。」といいました。

「そしたら鳳凰のマスターにちなんで「フェニックス号」にしましょう。」と私が言うと船長も了解してくれました。

どうやらこの船は、アルゴ船座の船でなくて、私達が活動するために特別に作られた船のようです。

私達は、これからの旅において、「フェニックス号」の素晴らしさを知る事となるのです。

第3章 過去のリラ星で人々 を救出する

PART1 破滅するリラ星から人々を救う

私がHさんのアチューメントをおこなっているとき、マスターから、リラ星に来てほしいと頼まれました。

リラ星はもうすでに現在なくなっている星ではないかと思い、マスターに尋ねると、「現在はもうすでにリラ星はなくなっています。

私達は、遠い過去の時代のリラ星に戻り行くべき事があるのです。

フェニックス号と一緒に来てください。」

フェニックス号で過去のリラ星に行く、という事は、フェニックス号は、空間だけでなく時間も超える事ができる「タイムマシンシップ」という事になるのでしょうか・・・

マスターはにこりと笑い、私達と共に乗船し、船長と相談しています。

私達は以前、いて座を救うために過去に戻り、いて座が他の存在から侵略される事を防いだ事があります。

その時に、私は、マスターから歴史を変える事はあまり好ましくないと言われた事がありますので、過去のリラ星に行く事に対して、少し不安を感じています。

私は、マスターに対して、今回の仕事は、マルチバースの評議会の許可を得ていますかと尋ねました。

するとマスターは、「もちろんです。大丈夫

ですので行きましょう。」と答え、私達は出発する事にしました。

フェニックス号が発進すると、いくつもの光のトンネルを越えていきます。

リラ星はかなり古い時代に、天の川銀河の叡智ある存在達の先祖となったような人達が住んでいたという事を聞いた事があります。このリラ星が失われた後に、リラ星人は多くの星に分かれて住み、プレアディスなどの先祖になったとの事でしたが、私も過去のリラ星の事はほとんど知りません。

フェニックス号がいくつもの光のトンネルを抜け、着いた先には、真っ赤に染まったひとつの星が見えてきました。

星が火山の噴火のような炎で包まれ多くの人達が逃げ惑っています。

星が破壊していく、まさにその最後の瞬間に、私達は来たようです。

私は、この人達を救助すべきか、尋ねました。マスターは「もちろんです。」と答えます。

フェニックス号は、この状態では地表に降り立つ事はできませんので、空を飛べるドラゴン達や騎士団達が中心になり、人々を安全な場所に移動させ、そこからドラゴンや天使達、羽をもった騎士団達が、フェニックス号まで人々を運びます。

また、小型の宇宙船もフェニックス号は準備しているようですので、けがをしている人達は、その宇宙船で運びます。

アスクレピオスやイシス達の医療班を中心に、女神達やフェアリーホビット達が船の中に運びこまれた人々の手当てを行っています。

おびただしい数の人達が、フェニックス号に

運び込まれてきます。

幼い子供達や女性達もたくさんいます。

リラ星の中でも、まだ純粋な光を保っている人々達が、たくさん集められているようです。

私は、リラ星に対して、マルチバースの最高次元の評議会の光を送ります。

星を少しでも安定させ、破壊する前に少しでも多くの人達の命を救い出すためです。

そして、残念ながら命を落とした人達のスピリットが、苦しみと悲しみを乗り越えて新しい世界に行けるように祈ります。

PART2 リラ星の壊滅していった原因

救助作業が続く中、私はリラの最後の様子を見ています。

私の中に一つのイメージが浮かび上がります。

それは、リラ星が、壊滅する事となった時の状況なのではないでしょうか・・・

大きなコンピューターの制御室を私は見えています。

そこは、この星だけでなく宇宙の「アカシック・レコード」と呼ばれる記憶や宇宙に生きる叡智ある種族達の過去と未来が保存されている場所です。

簡単に言うならば、その制御室で、星々の過去と未来のプログラミングが行われているようです。

もちろん、この部屋に入りコンピューターを操作できるのは、特定の人だけですし、そのような人達も自分の都合で、アカシック・レコードを見たり操作したりする事はできま

せん。

アカシック・レコードが問題なく遂行されているかどうかを、見守るだけです。

このマルチバースには、星や人々の運命を作り出すマスター達が存在しています。

彼らによって、アカシック・レコードというものが生みだされているのではないかと思います。

そしてリラ星の人達が、そのようなマスター達が作ったプログラムを物理世界で管理しているようです。

私達も星のツアーの中で、破滅に陥った星を再生した時に、その星の未来のアカシック・レコードが書き換わるところを見た事があります。

しかし、通常私達が、星や叡智ある人達の未来を覗き見たり、星の未来を変えたりする事は、基本的には許されていない事なのです。

その制御室の警報が突然鳴り響きました。

誰かがアカシック・レコードに不正に介入してきたようです。

制御室のメンバー達が呼び戻され、必死でコンピューターを操作していますが、警報は鳴りやまず、さらに深刻な状況へと向かっています。

コンピューターは、各所でトラブルが起こり、ついにプログラム自体が、大きく損傷されてしまいました。

それに伴って、この星の生命エネルギーを調整していたシステムにも影響がおよび、星の自然を管理する働きが暴走を始め、地震や火山の噴火などを引き起こしているようです。その結果、星が壊滅するような事態になってきたようです。

PART3 リラ星人、プレアディスへと向かう

多くの人達がフェニックス号に救助されたようですので、私達も早めにこの星から脱出する事にしました。

このままでは、星の爆発に巻き込まれてしまう可能性もありますので、急いで脱出します。

私は、船長に、このリラ星の人達をどの星に移しますか、と尋ねました。

船長はすぐに「アルクツールスカプレアディスが良いでしょう。」と答えました。

私はしばらく考えました。

ただアルクツールスは、その後の次元上昇と統合がうまくいっていないので、プレアディス星団へと送る事を決めました。

プレアディス星団は、様子の異なる星がいくつもあり、リラ星の人も自分達の好みに合った星を探す事ができますし、プレアディスは、その後プレアディス連合を作り、私達地球にも大きな援助の手を差し伸べている星団ですから、とても将来性があります。

船長も、納得したようにうなずくと、フェニックス号はプレアディス星団に向かいます。

私達は、フェニックス号で移動している間に、リラ星の人達の心を癒し、能力を高めて新しい星に適應できるように、ゴッデス・ダナやゴッデス・レイ、キング・オブ・サン、キング・オブ・ムーンなどをお願いして、リラ星の人達に光を送ってもらいます。

私達が、プレアディスに到着すると、すでに最高評議会から連絡があったようです。

その時代のプレアディスのマスター達が、私

達を出迎えてくれています。

各星々でも、リラ星の人達の受け入れの準備を行っています。

私は、船長とプレアディウスのマスター達にお願いして、リラ星の人達を、各星々へと送り届ける準備をしてもらいました。

フェニックス号に乗っている人達も、自分達がプレアディウス星団で生きていく事ができると知って大喜びです。

彼らは、プレアディウスのマスター達と相談して、いくつかのグループに分かれ星に降りていくようです。

私はその様子を見ながら、船長に尋ねました。

「私達は、リラ星とプレアディウス星の未来を変えてしまう事をしてしまったかもしれません。

これも最高評議会の人達は認めている事ですか？」

船長は、私を見て微笑みながら答えました。

「もちろんです。

あなた方が、このフェニックス号でリラ星の人々を救助するのは、すでに歴史の中の事実です。

もしあなたが、リラ星に行かなければ、この宇宙の叡智ある存在達の先祖が消えてなくなってしまう事になるので、現在の歴史が大きく変わる事となるのです。

あなたがここまで成長して、クリスタルパレスやフェニックス号を生みだし、宇宙に貢献する事も全て、定められている事実であり歴史なのです。」

その言葉を聞いて安心すると共に、これから先どのようなミッションと冒険が待っているのだろうと考えずにはられません。

第4章 リラ星のクリ

スタルの塔

PART1 時の狭間にたたずむリラ星の白い塔

今日のツアーは、メンバーの一人が、リラ星の女神からメッセージを受け取った事から始まりました。

彼女は、前回、破滅寸前のリラ星に行き、多くのリラ星人を救い出しプレアディウス星団に送る仕事を手伝ってくれたメンバーです。

今回も、ツアーの前に、リラ星の女神からメッセージを受けとつていたようです。

そのメッセージとは、リラの白く高い塔にあるクリスタルを復活させてほしいとの事でした。

私達は、創造主の神殿に入るとリラ星の女神を呼び出しました。

私達の前に現れた女神は、とても憔悴して、私達に懇願するような表情をしています。

私達は、リラ星の女神と共にフェニックス号に乗り込み、彼女が守護しているリラ星の白い塔へと向かいます。

私達は、不可思議な時間の歪みの中に入っていきます。

空間を旅するのでもなく、時間を旅するのでもない特別な光の中を抜けていきます。

私達が、女神と共に白い塔に着いたとき、そこは忘れ去られた時間の狭間のような世界でした。

荒涼として、生命の気配のない静けさだけに

支配された世界でした。

白い塔に入ると、1階は大きな会議場のような世界です。

もちろん誰もいず、壊れたような椅子だけが散らばっています。

2階は、とても重苦しいどんよりとした空気が立ち込めています。

とても長い間、帰ってこない主人を持っている古びた家という感じです。

女神が口を開きます。

「この白い塔は、リラ星がまだ存続していた頃は、リラ星人達のネットワークの中心として、多くの星々にわたっていったリラ星人達を結び付けパワーを与える場所でした。

リラ星の人は、このユニバースに叡智ある存在達を生みだすために、多次元宇宙のマスター達によって作りだされた種族です。

彼らが、特定の銀河や星団に入るのは、その星々の人々を叡智ある存在に育て上げ、その銀河や星団の意識を上げるためです。

ここは、かつて皆さんがユニバースと呼んでいる宇宙において、リラ星人達が活動の中心地としていたリラ星の神殿です。

リラ星の人達は、ここから他の星々へと移り住み、その星の人達との間に多くの種族を生みだしました。

アンドロメダ銀河のアールスター星やオリオン星雲、プレアディウス星団、アルクツール星、シリウス星などにもリラ星人は移り住み、それらの星々を舞台に、より高度な意識を持つ種族達を育てていきました。

この場所は、そのような各銀河や星々で活躍

する幾多ものリラ星人達が一堂に集まり、これからの宇宙の方針や宇宙で起こったさまざまな出来事を解決するための話し合いを行うための場所でした。

そしてここにあったクリスタルは、そのようなリラ星人達のエネルギーの動力源として、皆さんに光を送っていました。」

女神は、昔を思い出したのかうっすらと目に涙をためています。

「ところが、リラ星がある事件をきっかけとして、突然壊滅してしまう事になりました。その最後の時、皆さん達の宇宙船が私達の星に現れ、多くのリラ星人達を救い出してくれました。

皆さんによって救い出されたメンバー達は、今でもプレアディウス星団を中心として活動しています。

しかし、この白い塔は、星の壊滅のショックにより、時の狭間に閉じ込められ、だれもこの白い塔に戻ってくる事はできませんでした。

そして、この白い塔で働いていた大切なマスター達も、星の壊滅のエネルギーによって生まれたブラック・ホールの中に、閉じ込められているようです。

私達は、リラ星の白い塔を再度復興させて、この宇宙の中でばらばらになっているリラの星の種族を再度つなげていきたいと願っています。

そして再び、リラ星の人達にこの塔のクリスタルの力を分かち合いたいのです。」

私達が佇んでいる空間を昔のイリュージョンが通りすぎていきます。

リラのたくさんの種族の人達が集い、話をし

たり、共に祈ったりしています。

とても聡明そうな光を持ったマスター達のようにです。

女神は、さらに私達を3階へと導きます。

3階にはとても大きなクリスタルがありますが、輝きを失い重くよどんでいます。

「これが私達の生命力の源となった偉大なクリスタルです。

今となってはその輝きを失い、力を発揮する事もできませんが、以前は、とても美しい虹色の光りで輝いていました。

どうか、このクリスタルを再度活性化して、リラの人々に力を与え、リラの種族を再興させてほしいのです。」

リラの女神は、そこまで語ると、自分の思いを私達に伝えた安堵感から泣き出してしまいました。

リラの女神は、私達が現在ユニバーサル・パレスによって、このユニバースの各銀河や星団を一つにまとめ、多くの種族を仲間に行っている事を知り、自分達の種族も共に活動していきたいと思っているようです。

私達がともに活動している仲間達の多くは、もともとリラ星の種族から生まれたメンバー達も多いようですので、私達もリラ星の種族の人達と共に活動する事はとても有意義な事であると思います。

この塔のつくりを見ても、まさにユニバーサル・パレスの原型となっているような作りです。

きっとこの時代には、リラ星の人達が、今の私達と同じような働きをしていたのでしょ

う。

これからユニバースが大きく進化していく

にあたって、リラ星の人達の存在はなくてはならないものとなるはずです。

そのためにも、このクリスタルと白い塔を復興させてリラ星の人達に光を送り、彼らが本来の力に目覚めるようにしなくてはなりません。

PART2 リラの白い塔の復興

私達はまず、この白い塔を復興させるために、3階にあるクリスタルを新しいホーリー・クリスタルに変更する事にしました。

フェニックス号から、巨大なクリスタルをおろしてもらい3階に設置します。

そしてベラトリックスやマスターA、プレアディウスやアルクツールス、シリウスのマスター達を呼び寄せ、白い塔のシステムの修復にかかります。

私達はその間に、この次元のクリスタル・ドームに入ります。

そこにも憔悴しきったような女神が待っています。

彼女は、リラの種族を守護する女神です。

私達は、フェニックス号にお願いして、このクリスタル・ドームのマザークリスタルも変更してもらいました。

私達は、ユニバーサル・パレスをこの白い塔の上空に呼び寄せ、ベラトリックス達のシステムの修復をサポートするために、パレスから光を送ります。

パレスの光が、白い塔の3階にあるクリスタルにあたると、クリスタルはとても美しい虹色に輝き始めます。

そしてそのクリスタルの光りは、白い塔の動

力源にもなっているようで、白い塔のシステムが稼働し始め、白い塔全体が明るく輝き始めました。

そしてパレスの光りは、白い塔を貫き、クリスタル・ドームのマザークリスタルへとつながります。

クリスタル・ドームの女神の表情がとても明るく輝いてきました。

これでこの白い塔がある次元も安定してきます。

ベラトリックス達が、修理を行っている間、私達はもう一つ行わなければならない事があります。

それは、星の壊滅によって生まれた空間の狭間にとらわれたマスター達を救いだしに行かなければなりません。

リラ星の壊滅から、もうすでに計り知れないほどの時間が流れていますので、マスター達が生きて存在しているかも不安です。

PART3 リラ星の生き残りのマスター達を探して、

私達は、フェニックス号にのりこみ、ブラック・ホールの中に入っていきます。

私も、船長と一緒に、ブラック・ホールの探索レーダーを覗き込みます。

このフェニックス号には、ブラック・ホールの中に閉じ込められた人達を探すためのレーダーが搭載しており、そのレーダーに反応が出た場所に騎士団を派遣して、生存者を助け出す事ができるようになっています。

ブラック・ホールの中を進むと、ほどなくし

ーダーに複数の反応が現れます。
すぐにケンタウルス騎士団、狼騎士団、ライオンのレグルス騎士団、ドラゴン騎士団達が、船を出て探索を始めます。
騎士団達は船長の指示を受け、ブラック・ホールの中に閉じ込められていた生存者達を連れて船に戻ってきます。

ブラック・ホールの中から助け出されたメンバー達はとても傷つき弱っています。
私はすぐに、フェニックス号の医療室を準備してもらい、そこに彼らを運びこみます。
医療室では、カプセル型の装置に彼らを入れ、頭から足先まで何度も光が往復しています。細胞の傷などを修復して生命エネルギーを注入しているようですが、フェニックス号の女神イシスを中心とした医療チームだけでは足りないようです。

私はすぐに、アスクレピオスとその看護団を船に呼び寄せ、彼らの手当てを行ってもらいようにお願いしました。
すぐに、アスクレピオスと天使達がやってきて、治療を始めました。
手に大きな青い光をもったアスクレピオスが、重傷なメンバー達の傷を癒していきます。

助け出されたメンバーの中からリーダーと思われるような人が、私達の目に現れました。
「私達を助けてくださってありがとうございます。」
本当にこの日が来る事を、私達はずっと待っていました。
メンバー達は、何も見えない暗闇の中で孤独と絶望に耐えてきましたが、もう限界でした。
あなた方が私達の目に現れた時、私達は、この奇跡を神に感謝しました。
本当にありがとうございます。

私達は、リラの塔で、リラの人達のつながりをより強く保つための仕事をしていました。リラの人々は、この宇宙の進化のために、各地に分かれ叡智ある人種達をたくさん生みだしていったのです。

そして、それらの人達が力を合わせて、いつも同じ目的のために、共に協力して働けるように手助けをしていました。

リラ星が、突然崩壊を始めた時、私達は、リラ星とリラに関わる種族の記録と情報を保つために、このリラの塔を別の次元に急いで移し替えましたが、私達のカもそこまででした。

私達は、星が崩壊するエネルギーに飲み込まれ、次元の歪の中に堕ちてしまったのです。

そして長い年月が過ぎました。

私達のメンバーも傷つき、自分が何者であるかという事さえも忘れ始めた者達も出てきました。

忘却の闇の中で、私達は自分達の意識さえも保つ事ができなくなっていたのです。」

リーダーは、傷ついたメンバーを見渡しながら、安どの涙を浮かべています。

「しかし、私達には希望が戻りました。今、リラ星のメンバー達がどうなっているのかよくわかりませんが、私達は、リラ星の再建のために働こうと思います。」

私は、先日フェニックス号で、崩壊寸前のリラ星に行き、多くの人達を助けだし、プレアディス星団に移した事を伝えました。

リーダーはその事を聞くと、突然大きな声で鳴き始めました。

その声に驚いて、まだ元気が残っているメン

バー達も、リーダーの周りに集まってきました。

そして、彼らも、私からリラ星の人々をプレアディスに移した話を聞くと、お互い抱き合って泣き始めました。

彼らの中で、大きな希望が生れたようです。

私は、彼らをそこに残し、フェニックス号の指令室にいき、リラの塔で修復にあたっているベラトリックス達に、リラのメンバーの救出に成功した事を伝えました。

リラの塔もだいぶ修復が進んでいるようでした。

PART4 リラの塔とリラ星の種族達

私達のフェニックス号は、リラの塔に戻ってきましたが、出発した時と比べて驚くほど美しく立派になっています。

ベラトリックス達が、私達を出迎えに来ました。

「TAKESHI さん、本当にご苦労様でした。リラの塔の修復は、ほとんど終了しました。後は私達がサポートしますので、元気なメンバーを配置に戻し、最高評議会の光を送れば、システムが稼働するはずです。」

私は、ベラトリックスや修復にあたった仲間達に感謝の言葉を述べると、救出されたメンバーの中で、元気なメンバー達をリラの塔におろします。

彼らはリラの塔のあまりにも美しい変容ぶりに驚いています。

しかもシステムも最新式になっています。

私達は、このリラの塔を稼働し、リラ族のメンバーをここに集める事にしました。

リラの女神に、現在ユニバースに残っているリラ族の人達にテレパシーでコンタクトをとってもらいます。

あれからとても長い年月が過ぎていますので、その当時、各種族のリーダーだった人も自分の役割を忘れてたり、自分自身がリラ族である事さえも覚えていない人達がいるかもしれません。

リラの種族そのものが、ばらばらになって失われてしまった可能性もありますが、残っているリラの種族だけでも、再統合を図る必要があります。

ベラトリックスやマスターA達のメンバーが、システムの操作の仕方を、リラのメンバー達に教えています。

リラのメンバーも、これで自分達の種族がもとの様につながれるかもしれないという希望に満ち溢れています。

皆さん、とても熱心に話を聞いています。

それでは準備ができたようです。

ユニバーサルパレスから、リラの塔の稼働のために光を送ってもらいます。

虹色の光がリラの塔を駆け抜けていきます。すると、リラの塔のシステムが静かに動き始めました。

多くの新たなデータもダウンロードされているようです。

それは、現在のリラ族に関するデータである事をベラトリックスが教えてくれました。ユニバーサル・パレスの図書館とリンクして、このリラの塔が休止している間の宇宙の歴史や情報をダウンロードしたようです。

リラの塔にある、リラのメンバー達を輸送するための空間転移装置も稼働し、転送実験が行われその性能を確認します。

転送装置もリラ星の種族へのコンタクト方法も問題がないようです。

私は、女神にリラ族の人達の転送をおこなうように指示しました。

システムが一斉に稼働しはじめ、1階の会議室に作られている転送装置から、1人また1人とリラの種族に人達が出てきました。

彼らの遠い記憶の中に残っていた「伝説のリラの塔」が、彼らの意識の中に戻ってきたようです。

彼らも、かつてこの場所に集い、リラ族の未来やこの宇宙の進むべき方向性について話をしてきた事を思い出したようです。

先日、プレアデイスに運んだリラ族のマスターも転送されてきました。

彼らは私の姿を見ると、私達の前にひざまずき感謝の言葉を述べています。

そして仲間達の姿を指さして、さらに私達に感謝の言葉を述べています。

やがて1階の会議室はたくさんのリラの種族で埋まりました。

皆さん独自に進化しているようで、姿形も異なり、言葉も通じないようですが、リラの種族の魂が次第に目覚めてきたようです。

言葉ではなくお互いのスピリットでコミュニケーションを取り始めました。

全てのメンバー達が、ここに来た理由をすぐに理解したようです。

リラの塔が再建され、各星々に散っていった仲間達が再び集い、リラ族の新たな始まりの

日を迎えた喜びで、彼らの光が一段と大きく輝きます。

私は、女神とリラの塔のリーダーに皆さんに挨拶をするように言いました。

リラの塔のリーダーは、彼らの前に立ちますが、涙で声が出ないようです。

彼は、テレパシーで、メンバー達に喜びの声を伝えているようです。

メンバー達からも大きな喜びのエネルギーが伝わってきます。

女神から、このリラの塔の再建に関わる説明が行われ、リラの種族達が再び一つに集い、新たな宇宙の進化のために活動する事を誓い合っているようです。

第5章 未来のアルクツール

ス星の統合

PART 1 アルクツールスの未来へ

私がメンバーに対して、天照大御神のアチューメントをおこなっている時でした。

天照大御神のアチューメントが終了すると、天照大御神が、私達に来てもらいたいところがあるといって、私達を光のトンネルを越えてある星へといざないました。

着いた星には、私達が見知らぬマスターが待っています。

マスターが私達に事情を教えてくださいました。

「TAKESHIさん、この場所に来てくださって本当にありがとうございます。

この星は、皆さんの時代からすると、はるか未来のアルクツールス星です。

そのような時代に皆さんをお呼びした理由は、「このアルクツールス星の未来において、アルクツールス星は再び次元の統合を迎える予定になっているのですが、うまくいかないで皆さんに手伝ってもらいたいのです。」

しかし、「手伝ってくれ」と言われても私達は、本当の所どうしたらよいのかわかりません。

アルクツールス星は、私達の時代に、物理的な星からスピリチュアルな次元へと次元上昇を行いました。その後物理次元や他の次元との融合がうまくできずに、スピリチュアル次元のみ存在していた、という事を私達は聞いていました。

という事は、未来において再度、スピリチュアルな次元と物理次元等が統合するように計画されているようです。

この時代のアルクツールス星のマスターも、スピリチュアルな次元と他の次元が、誰かの手によって、意図的に切り離されてしまったので、再統合のためにいくつかの次元をつないでもらいたいと私に言います。

マスターはアルクツールス星の次元について4つの次元がある事を教えてくれました。ひとつは物理的な星の次元、次に叡智ある人達が生きている次元、以前クートフツミや魔術師マリーンがいた次元のようです。

そして、フェアリー達が新たに作っているフェアリーワールド、最後にアルクツールス星のマスター達がいるスピリチュアルな次元のようです。

この次元の構成は、これから地球がパラレルワールドに向かう時に分かれていく次元と同じ別れ方です。

もしかすると、これが一つの星がパラレルワールドに分離し、さらに統合される時の基本的なルールなのかもしれません。

私達は、ユニバーサル・パレスとフェニックス号をこの時代のアルクツールス星の上に呼びました。

そして、ユニバーサル・パレスに、まず次元の浄化とエネルギーを高めるための光を送ってもらいます。

私達がいるところは、荒れ果てた星の様にみえますので、きっと物理的な星の次元のようです。

この物理的な星は、浄化にかなり時間がかかりそうですので、私達は先にフェアリーワー

ルドに入る事にしました。

PART2 自然豊かなフェアリーワールド

フェアリーワールドはやはり自然豊かで美しい場所です。

ここは、新しく生まれる星に多くの動物や植物達の生命をもたらします。

この次元では、美しい自然と生命達をフェアリー達が守り、新しい次元に適應できるように進化させているようです。

この次元を核として、他の3つの次元を統合していく事としました。

さて、統合はどのようにすべきか・・・と考えていたら、そこにイメージが浮かんできました。

それは、それぞれの次元に、統合のための大きなホーリー・クリスタルを設置して、そのクリスタルの光を、星のクリスタル・ドームの中にあるマザークリスタルとつなげる事と、各次元のホーリー・クリスタルを一つにつなげていく事で統合できるようです。

私は、フェアリーのリーダーに、この星の中心となる場所に連れて行ってくださいとお願いしました。

フェアリーは、山の頂の見晴らしの良い場所に案内してくれました。

不思議な事に、このあたり一帯を黄色い光が包んでいます。

私は、フェニックス号に呼びかけ、その光の中心に、ホーリー・クリスタルをおろしてもらいます。

ホーリー・クリスタルとは、4大エレメントが統合されて生みだされた神聖なクリスタルです。

次に、ユニバーサル・パレスを、その上に呼び、ホーリー・クリスタルに向けて光を送ってもらいます。

光がホーリー・クリスタルにつながると、すぐに、私達は、この次元の地下にあるクリスタル・ドームへと向かいます。

そこにはこの次元の生命を支えるマザークリスタルがあり、女神が守っています。

私は、ユニバーサル・パレスの光を、ホーリー・クリスタルを通して、この次元のマザークリスタルへと繋げます。

この次元に大きな光の柱が大空に向かって立ちあがっていきます。

これで、フェアリーワールドの準備は整ったようです。

PART3 叡智ある人々が住んでいる次元

次に私達は、叡智ある人々が住んでいる次元へと向かいます。

この次元のマスターにお会いすると、マスターも、アルクツールス星の統合を心から望んでいらっしゃるようです。

叡智ある人々達が住んでいる次元は、自然も豊かではなく、生命力も滞り、自分達のパワーも十分に発揮できないような状態のようです。

早く次元が統合してエネルギーの循環が生まれ、自分達の叡智を、もっと多くの生命達と分かち合いたいようです。

私達は、この星の神聖なる場所へと案内してもらいました。

そこは緑色の光に満ちている草原の様にみえます。

私達は、緑色の光の中心へホーリー・クリスタルをおろしてもらい、ユニバーサル・パレスの光をつなげてもらいます。

私達が、この次元のクリスタル・ドームに入ると、元気がない女神が立っています。

クリスタルも活気がなく、黒くよどんでいます。

この次元のエネルギーが、決して良いものではない事が分かります。

私達は、ユニバーサル・パレスの光をつなぐ前に、マザークリスタルを浄化しクリスタルの炎の種と呼ばれているクリスタルの活性のためのエネルギーを入れます。

そしてクリスタルが活性し光に満ちてきたところで、ユニバーサル・パレスの光を、ホーリー・クリスタルを通してこのマザークリスタルに導きます。

この叡智ある存在達が住んでいる次元にも光の柱が立ちました。

私達はスピリチュアルな次元に入る前に、再び最初の物理次元に戻りました。

先ほどのマスターと向かった所は、赤い光が満ちている場所です。

私達は、ここに統合のためのホーリー・クリスタルを設置し、ユニバーサル・パレスの光を導きましたが、この星の荒れようはひどいものがありますので、星を創造する女神やゴッデス・エオリアにお願いしてこの星の自然を豊かにしてもらおう事にしました。

私達は、物理次元のアルクツールス星の地表に立ち、星の創造のエネルギーを凝縮したシルバーボックスを開きました。

この箱を開くと、星の進化の状態に合わせて創造のエネルギーが飛び出してきて、星を自然豊かな世界へと変えていきます。

荒れ果てた星でも、生命達が住むにふさわしい環境を整えていく事が出来るのです。

さらにゴッデス・エオリア達が水の流れを作り、動物達が生存していける環境を生みだします。

クリスタル・ドームに入ると、今まで全く元気がなかったマザークリスタルにととても活気が出てきました。

私達はここにも、ユニバーサル・パレスの光、ホーリー・クリスタルの光、マザークリスタルの光をつなぎ光の柱を立てます。

残りは、スピリチュアルな次元ですが、私の中では、もうすでに、物理次元のアルクツールス星、叡智ある存在達のアルクツールス星、フェアリーワールドのアルクツールス星が3階建ての建物の様に重なっていく様子が見えていきます。

それぞれの、ホーリー・クリスタル達がつながり、マザークリスタル達も縦に一直線につながっていきます。

PART4 スピリチュアル次元のアルクツールス星の異変

私達は、スピリチュアル次元のアルクツールス星に入りました。

そこには純白の美しい光に満たされたマスターやゴッド達が、私達を待っています。

彼らも、自分達の次元と他の次元が一つに統合されて、新たなアルクツールス星が生まれる事を願っています。

私達は、この次元の統合を行うために神聖な場所へと連れて行ってもらいました。

そこは、さすがに高次元の世界だけあって黄金色の光に満ちあふれています。

私達はここにも統合のためのホーリー・クリスタルをおろして、ユニバーサル・パレスの光をつなげます。

そしてあとは、この次元のクリスタル・ドームのマザークリスタルと光をつなげば完成です。

私達は、安堵感と共にクリスタル・ドームに入りました。

そこで、私達は、自分達の安堵感を一気に吹き飛ばすような光景を目にしました。

女神が傷つき今にも消えそうな感じなのです。

クリスタルもまったく輝きがありません。

これだけの高次元でクリスタル・ドームに輝きがないという事が、私には信じられませんでした。

女神に尋ねると、クリスタル・ドームのエネルギーを誰かに吸い取られているようなのです。

この重大な問題に、スピリチュアル次元のマスター達も気づいていなかったようです。

もしこの事に気づかず、4つの次元を統合していたなら、全ての次元のエネルギーが、吸い取られてアルクツールス星の統合は大きな失敗に終わった事でしょう。

私は、これから大変な事が起こる予感がして、私達の騎士団やマスター達を呼び寄せました。

まず、このエネルギーがどこに吸い取られているのか調べるために、マスター・ゴールドレイやアリュウシャ達の偵察隊を送り込みました。

私達は、全員フェニックス号に乗り込み、彼らの後を追います。

偵察隊が一つの場所を見つけました。
そこは、隠された次元にある秘密基地の様な建物です。

この場所は、いったい誰の基地なのか尋ねると、偵察隊が「レプテリアンの基地のようです。」と答えます。

レプテリアンとは、この物理世界にも大きな影響を与えている宇宙人の一つのグループです。

支配欲が強く経済界や政治界の人達とつながり、略奪や争いなどを引き起こしているグループであるといわれています。

私達も、星のツアーで、彼らによって壊滅させられた星をいくつも見てきましたが、まだ直接会った事ありませんし、彼らの基地に入る事も初めてです。

おそらく、このまま入っていくのは危険が大きすぎますので、どのように対処すればよいか相談します。

いつの間にか、私達の横にはアシュタールのメンバーも来ています。

私達はまず、彼らと争う事が目的ではないので、この基地の時間を止め、レプテリアン達が活動できないようにします。

そしてフェニックス号を近くに止め、この状況にふさわしい光を、送ってもらう事にしました。

魔法使い達が、基地に向かって時間を止めるための神聖幾何学を描き始めました。

時間のエネルギーが凍結して時間が緩やかに止まっていきます。

時間が止まったところで、ケンタウルや大狼座の騎士団、しし座騎士団などのエネルギーの感知力が強く機動性のあるメンバーを中

心にして、基地の中に入り込みます。
何かあっても逃げ足の速いメンバー達が、先に動きます。

そして私達の秘密工作隊であるコロボックルとホビット達が基地のコントロールシステムをめがけて入っていきます。

もちろん、レプテリアンと遭遇しても、彼らのマインド・コントロールをうけないように、防御のためのマントや特別なシールドを身に着けていきますが、何が起こるかわかりませんので十分注意が必要です。

私達も魔法使いやゴッデス・ダナ、ゴッデス・レイのマインド・コントロールを解放する事に役に立つマスター達を引き連れて入ります。

機械がたくさん埋め込まれている通路が、まるで迷路のように続いています。

その中を進んでいくと、仲間の一人から、それらしい場所を見つけたと、連絡が入りました。

そこには大きなモニターに映るアルクツールスの星とたくさんの装置、そしてそれを操作する数名の存在達があります。

魔法使いにこの部屋の時間を動かしてもらい、私は彼らと話をします。

「あなた方は、ここからアルクツールス星のエネルギーを機械で吸収しているのですか。」
彼らは、私達が急に来た事に大変驚いているようです。

どこかに逃げようとしませんが、すぐにケンタウルス達につかまり、私の前に連れ戻されます。

彼らは自分達が、アルクツールス星のエネルギーを吸収している事を認めましたが、

「私達は、他の星からエネルギーを奪わないと生きていけないのです。

私達が生きるために、エネルギーを奪って何がいけないのですか。」と反対に怒りをあらわにします。

私は、ゴッデス・ダナとゴッデス・レイにお願いして彼らの DNA を活性化してスピリットの働きを強くするとともに、彼らの本来の意識を目覚めさせ、彼らの心を支配しているエネルギーを取り除いていきます。

彼らは、おそらくレプテリアンによって支配され、この仕事を行っているようです。

私は彼らに語ります。

「いや、他の星や人々のエネルギーを奪わなくても生きていけます。

私はあなた方をこの基地から連れ出して、あなた方の星へと送り届ける事ができます。

あるいは、私達と共に、生きていく事もできます。

エネルギーは、他の星から奪う必要もなく、この宇宙に沢山満ちあふれています。

あなた方が、自然と共存していく事が出来るならば、あなた方は、もっと豊かに楽しく生きていけます。」

ゴッデス達の光を受けて、自分本来の気持ちを取り戻してきたのか、彼らは反発しながらも私の話を聞いています。

自分達の心の中で、自分達がここで行ってきた事や、自分達が生れた星の事を考えているようです。

私は、さらに語ります。

「あなた方にも、愛する子供や家族がいまませんでしたか、

あなた方は、愛する心さえも失ってしまいま

したか。

あなた方は、今だったら前の世界に戻れるのですよ。

もし前の世界が嫌だったら、新しい自由な世界があなたの事を待っているのですよ。」

彼らは、ようやく自分の気持ちに気づいたようです。

家族の事を思いだしたのでしょうか、涙を流しながら、自分達を自由にしてくれるように、私に頼み始めました。

「もちろんです。

私達と一緒に行きましょう。

でもその前に、あなた方が吸収したアルクツール星のエネルギーを元に戻してください。」

彼らは機械のコントロール・パネルに向かうと機械を操作し始めました。

機械が、ブーンという唸り声をあげて作動します。

大きなモニターに映っているアルクツール星に、光が流れ込んでいく様子が映り始めました。

PART5 レプテリアンと地球

その時もう一つの騎士団からも連絡が入りました。

大切な場所があるので、すぐに来てくださーいとの事でした。

私達は、急いでその場所に向かいます。

モニターに映っているのは地球です。

それが何時の時代の地球かわかりませんが、私達がいつも見ている地球である事に間違

いません。

私は、この機械の操作をしている存在達と話をしました。

「あなた方は、この星に対して何をしているのですか」

彼らは、時間が動き出すと、突然現れた私達をみて、驚きの声を上げます。

私はもう一度質問を繰り返します。

彼らは、周りを取り囲んでいるケンタウルスやしし座の騎士団を見て、観念したかのように答えます。

「私達は、レプテリアンやそのエネルギーをこの星に送り込んでいます。」

私は彼らに、何故そのような事を行っているか問いただします。

「この星の進化がうまくいかないように、レプテリアンのエネルギーを送り、この星のエネルギーを吸収しています。」

私は、その事をやめるように彼らに言うと、先ほどと同じように彼らは反発します。

「私達は、他の星からエネルギーを吸収しないと生きていけないのです。

そのために、他の星が犠牲になっても仕方がない。

あなた達だって、他の生命のエネルギーを奪って生きているのではないですか。」

私はこの言葉に、ドキッとさせられました。確かに私達も、食料という形で他の生命達のエネルギーを奪っている事には違いがないし、地球の生命エネルギーを奪うようにして、今の地球人は生きているからです。

しかしここは彼らの気持ちと同調しているわけにはいきません。

ゴッデス・ダナとゴッデス・レイにお願いして彼らに光を送り、彼らの気持ちをレプテリアンの支配から解放します。

私は、彼らにここから出て、自分達の故郷に戻り、愛する家族と共に暮らさないかと尋ねました。

彼らは、私にたいして冷やかに笑うように答えます

「自分達の家族も星も、争いで奪われてしまった。

自分達には帰る所がないからここにいるのです。

そして、自分達の星が奪われたように、自分達も他の星からエネルギーを奪って生きていくしかできないのです。」

彼らの信念はとても強いものです。

私は、人々の運命を切り替えていく事ができるゴッデス・オリジンを呼び出し、彼らの信念が作り出している未来の定めを変えてくれるよう、お願いしました。

ゴッデス・オリジンは、私に向かってうなずくと彼らを優しい光でつつみます。

一瞬、彼らの意識がなくなったように見えました。

彼らが目を開けると、今までの彼らとは異なる波動に包まれています。

私は彼らに、「新しい星であなた方を受け入れてもらえるように私がお願いします。

あなた方は、他の星のエネルギーを奪わなくても生きていけるように、私が保証します。

あなた方が、新しい人生を始める事ができるように、私を信頼してついてきてくれませんか

か。」

彼らは、素直に同意して、

「私達が生きていける場所があるなら、私達は行きましょう。

もしそれがないのなら、私達はここに残ります。」

私は、彼らの手を握り、共に来るように言いました。

その時です。周りの機械が一斉にカタカタと動き始めました。

レプテリアンに対する時間の停止が途切れたようです。

私は全員にすぐにフェニックス号に戻るよう言いました。

フェニックス号から、転送装置を使って、メンバー達をフェニックス号に急きよ戻します。

私達も戻らなければなりません。

私はその前に、この装置を破壊するようにロボックル達にお願いしました。

おそらく、すぐに新しい機械が出来上がるでしょうが、少しの間だけでもこの機械を止めておきたいのです。

フェニックス号に戻ると、彼ら以外にも数名の存在達が、レプテリアンの基地からフェニックス号に運ばれていました。

私はゴッデス・ダナとゴッデス・レイにお願いして、彼らのマインド・コントロールを解き、傷ついた心を癒してあげるようお願いしました。

そしてアシュタールのメンバーとレプテリアンの事について話をします。

私は、マスター達が、どうしてレプテリアン

を放置しているのか、尋ねました。

アシュタールは、レプテリアンには彼らなりにも存在価値があり、それがこの宇宙や星々にとっても大切である事を教えてくれました。

恐らく、この局部銀河にもシバ神が率いるクラシャー連合がいたので、恐らく同じような存在目的を持っているのだらうと、想像はできます。

しかし、レプテリアンは、クラシャー連合をはるかに超える影響力を持ち、いくつもの星を破滅に導いています。

私は、アシュタールのメンバーに、近いうちにレプテリアンを統括するマスターと合わせてくださいとお願いしました。

アシュタールのメンバーは、彼に伝えておきますとあって、その場を去りました。

PART6 アルクツールス星の統合

アルクツールスのスピリチュアル次元に戻ると、マスター達が喜んで迎えてくれます。スピリチュアル次元のクリスタル・ドームに入ると、女神もとても元気になりマザークリスタル達も美しく輝いています。

私は安心して、ユニバーサル・パレスの光を、統合のためのホーリー・クリスタルとマザークリスタルにつなぎます。

次に、私は4つの次元を一つに統合するように、ユニバーサル・パレスに指示を出しました。

スピリチュアル次元のクリスタルの光が、他の3つの次元のクリスタルとつながり、さらに輝きを増すと、今までの3つの次元に加え

て、アルクツールス星のスピリチュアル次元も一つに統合されていきます。

4つの次元すべてを純白の光が包み込み、4つの次元をしっかりと抱きかかえるようにして一つにつながっていきます。

新しいアルクツールス星の誕生です。

4つの次元のマスター達が、一つに手を取りあってくるくると回っています。

喜びの光がアルクツールス星を包み込み広がっていきます。

私は、喜びに満ちあふれるマスター達にお願いがある事を伝えました。

彼らが私の前に並びます。

私は、フェニックス号から、数十名の存在達をおろします。

レプテリアンの秘密基地から連れてきたメンバー達です。

「マスター達よ、どうか彼らをアルクツールス星に受け入れてください。

彼らは帰る星もなく、孤独な存在です。

アルクツールス星で共に、楽しく有意義に生きていけるように、彼らの面倒を見てあげてください。」

マスター達は、にっこり微笑んでこたえます。

「もちろんです。

共に新しいアルクツールス星を作り上げるために、一緒に努力していきましょう。」

秘密基地から逃れてきた彼らにも、新しい家族と故郷が出来そうです。

第6章 アシュタールのユー トピアとレプテリアン

PART1 アシュタールのユートピア世界へ

その日は、ユニバーサル・パレスに入るとアシュタールのエレナとミサンガ達が私達を待っています。

「今日はあなた方を大切な場所へとお迎えするためにお待ちしていました。

どうぞ、私達と共に来てください。」と彼らは言いました。

私達と各銀河や星団の代表者達は、フェニックス号に向かいます。

今回は、フェニックス号の中に転送装置が出来上がったようで、私達はスーとフェニックス号の中に吸い込まれるように入っていきます。

ほかの銀河のマスター達も楽しそうにキャビンでくつろいでいます。

フェニックス号が、どんどん次元を上昇していきます。

そしてついたところは、美しい街並みを見下ろす小高い山の上でした。

そこには、美しいクリスタルの神殿が立っており、私達の前に、威厳のある背の高いマスターが立っています。

彼はアシュタールのマスターであることを私達に伝え、私達に歓迎の言葉をつたえてきます。

「皆さんが、私達アシュタールの世界へ来てくださった事を心から嬉しく思います。

ここは、多くの存在達が、喜びと共に暮らしていける場所です。

皆さんの言葉で言うならば、ユートピアと呼ばれている世界です。

争いも差別もない世界、お互いが優しくいたわりあう世界です。

皆さんが眼下に見ている街は、皆さんにとってユートピアの世界の象徴です。

1人1人が心の中に持っている理想の世界、日常のつつましいながらも愛に満ち溢れるような世界を表現しています。

この街並みは、皆さん方、1人1人異なって見えます。

もちろんそれでよいのです。

1人1人の価値観や愛の形、理想的な日常の姿は異なりますし、異なる事によってユートピア全体の姿は、多様性のある素晴らしいものになっていきます。

ただ一つ共通する事は、この世界では、皆さんは自由であり十分に愛と喜びを享受する事ができるという事です。

私達は、そのような世界を、この宇宙の中にたくさん作りたいと思っています。

多くの存在達を、自分自身の楽園へと導きたいと思っています。

しかし、そうするためには、越えなければならない壁もあります。

皆さん達が持っている憎しみや悲しみの感情、自分達を制限している壁、自由であるのに自由ではないと思っている幻想など、皆さんの心が、愛と喜びに満ち溢れる事を邪魔しているもの達です。

本来皆さんは自由であり、何物にも支配される事なく、自らの選択で生きていく事ができ

ます。

自分自身が愛を選べば、愛が満ち溢れた世界に生きる事ができます。

自分自身が苦痛を選べば、人生の中で幾度も、困難な状況が生まれ、皆さんを苦痛と悲しみのどん底に陥れます。

私達は、皆さんが愛と喜びの世界を選んでくださる事を待ち望んでいます。

そして、自らの心の中に、ユートピアを作ってくださいる事を深く願っているのです。

私達はそのために、多くの人々にメッセージを送り続け、人々のスピリットが目覚めるように働いてきました。

ここにいるエレナも、皆さんをここにお連れするために、長い間あなた方を見守り、多くのマスターや女神達と協力して、あなた方を育ててきたのです。

今日、皆さんに、このアシュタールのユートピアをお見せする事ができて、私達はとてもうれしく思います。

そして、あなた方の宇宙に属する銀河や星団のマスター達も、共にこの世界にお迎えできましたので、あなた方の宇宙もこれから、さらに大きく飛躍していく事でしょう。」

PART2 レプテリアンのマスターの登場

私達は、偉大なるアシュタールのマスターの言葉を聞きながら、自分達の心が澄み渡っていく様子を感じます。

確かに、ユートピアは自分達の心の中にあるのです。

その事に気付かなければならない時が来て

いるようです。

アシュタールのマスターがもう一人のマスターを呼びます。

「彼は、あなた方が会いたいと願っていたマスターです。

皆さんがレプテリアンと呼んでいるグループを統括するマスターです。」

私達の仲間が一斉にどよめきました。

各銀河のマスター達は、レプテリアンによって大変な被害を受けている星々をたくさん知っているからです。

少し小柄でがっしりとした体格をしているマスターが話し始めます。

「皆さんは、私がレプテリアンのグループを統括しているマスターであるを知って、私に憎しみや怒りを感じていらっしゃる事でしょう。

それとも、レプテリアンがなぜ、人々を陥れたり支配しようとするのか知りたいと思われるのでしょうか。

今日は、皆さんとその事についてお話したいと思います。

まずレプテリアンは、一つの目的のために生まれました。

それは皆さん方が、さらに強い愛と喜びに目覚めるための試練を与えるという事です。

レプテリアン自体も、私達と同じように創造主から生み出された存在です。

創造主は、私達の心を映し出すための人種を生み出しました。

レプテリアンは、様々な人種が持っている支配欲や傲慢さという意識を反映しています。彼らは、それらの意識から生み出されている

存在ですので、彼らには善も悪も存在しません。

ただ他者を支配する事、他者をコントロールする事を楽しんでいるだけです。

それが、彼らの仕事であり、彼らがなすべき事なのです。

皆さんの中で、彼らと同じ意識を持ち、他者を支配したりコントロールしたいと思うならば、レプテリアンとすぐに波長が合い、彼らがやってきます。

皆さん自身の欲望が、彼らを呼び寄せているといってもよいでしょう。

皆さんの中に、他者に対する支配欲が存在しなければ、彼らは皆さんに近づく事はできません。

皆さんが愛に満ちていると、あなたの周りのレプテリアンは、異質なエネルギーを感じて近づけなくなるのです。

私達は、このレプテリアンが存在する事によって、支配欲や傲慢さがどのような結果をもたらすかを皆さんに教えています。

星の人々がレプテリアン達のエネルギーに巻き込まれ、同じ星の人々を支配するために略奪や破壊を行いました。

あるいは星の自然を破壊し、人々がそこに住めなくなった星もあります。

また自分達の星だけでなく、近くの星を侵略して破壊した事もあります。

たとえそれが自分達の星でなくとも、レプテリアンが関わる事によって大変悲しむべき状況が起きている事を、皆さんはよくご存知です。

しかし、レプテリアンがいなくても、同じよ

うに支配欲を持っている人がいれば、やがてその星は同じ結末を迎える事は事実です。ただ遅いか、早いかの違いだけでしょう。

問題は、皆さん方がレプテリアンと波長が合わないように、常に愛の意識を持てるかという事です。

私達は、皆さんをアシュタールの楽園に導きたいと思います。

そのためには、皆さんの中にある愛や喜びをさらに高めなくてははいけません。

私達は、レプテリアンを使って、皆さんに、愛と喜びがどれほど大切であるか気づかせています。

アシュタールの楽園は、愛と喜びに満ちています。

皆さんが、愛と喜びを失い、恐れや不安に捕らわれた時に、アシュタールの楽園は遠ざかります。

しかし、それらを乗り越える事で、今まで以上に強い愛と喜びに目覚める事ができるのです。

それが、アシュタールの楽園へ入るための近道なのです。

レプテリアンが行った支配や暴力的な行為は、決して良いものではありません。

しかし、それをきっかけとして、皆さんが団結し、力強い愛に目覚め、アシュタールの楽園に入る事ができるなら、レプテリアンという存在も、あなた方の進化と成長を助けているといえるでしょう。」

レプテリアンのマスターが言葉を止め、周りを見渡しています。

各銀河や星団のマスター達は、彼の言葉に心を奪われ、ただ彼を見つめています。

「しかし残念な事に、この宇宙にはレプテリアンと波長が合ってしまう人達が、あまりにもたくさん存在しています。

普通の人達だけでなく、星の運営に深く関係しているマスター達もそうです。

彼らは、レプテリアンを乗り越えて、自分達の深い愛に目覚める事なく、多くの被害者を生み出し、星を次元降下させたり、自らブラック・ホールの中に飲み込まれたりしています。

これはとても悲しむべき事です。

宇宙の創造主は、レプテリアンを乗り越えて、皆さんに深い愛に目覚めてほしいと思っているのに、レプテリアンと共に他者を支配し、自らの星や他の星々を破滅に導いているのです。

皆さんの意思や皆さんのパワーはそれだけのものなのでしょうか。

レプテリアンを乗り越えて、アシュタールの愛の世界にたどり着く人達はいないのでしょうか。」

銀河のマスター達は恥ずかしそうに下を向いたり、自分達の気持ちをかみしめています。マスター達の中から、いくつかの声が聞こえてきます。

「自分達は超えていきます。」

「私達はアシュタールの世界に入ります。」

レプテリアンのマスターは、その声を聴くとにっこりと笑います。

「皆さん方は、必ずレプテリアンを超えて、さらに大きな愛に目覚める事ができます。この宇宙を見守るマスターや女神達があなた方の事を強くサポートしています。

そして、何よりも、レプテリアンによって支配され崩壊していた星々を助け出し、再建していけるメンバーがいるではないですか。これは何物にも代えがたい喜びです。

しかし、これ以上多くの星々とマスター達が、レプテリアンの支配を受け続けていては、いくら TAKESHI さん達が頑張っても追いつきません。

ましてや、銀河や星団を代表するあなた方が、レプテリアンの波長と同調して、彼らの支配を受けてしまったなら、銀河や星団ごと次元降下を起こしてしまい大変な事になります。そうすると TAKESHI さん達の方ではどうしようもなくなるのです。」

レプテリアンのマスターは、周りを見渡し、にっこりと笑ってあるものを取り出しました。

「これは、TAKESHI さん達が、ラブラブ・ワッペンと呼んでいるものを改良したものです。

このワッペンは、愛の力で、その人の意識や感情を強かに防御します。

つまり、レプテリアン達のエネルギーの支配を受けないように、その人の意識と感情にシールドを張るのです。

このワッペンを胸につける事で、皆さんはマインド・コントロールを受けずに済みます。」

銀河のマスター達から大きな歓声が上がります。

ホビット達が用意してあった「改良型ラブラブ・ワッペン」を大量に運んできてマスター達に手渡していきます。

「ワッペンは、フェニックス号にたくさん積んでありますので、皆さんだけでなく騎士団

の人やマスター達にも渡してください。
そして、どうかレプテリアンにも愛の光を送り、愛の中に統合してあげてください。」

レプテリアンのマスターは、私達に向かって「どうかあなた方の力で、レプテリアンによって荒廃した星々やマスター達を救ってあげてください。

次元が降下してしまえば、私達の手には負えなくなるのは仕方がない事なので、あなた達だけが私達の希望です。

私もレプテリアンのマスターに向かって、笑顔で答えます。（内心は大変だな～と思いつつ）

PART3 アシュタールのユートピアと女神

続いて私達は、アシュタールのユートピアの世界に入ります。

私には、石造りの港町のように見えます。まるでアニメ映画の「魔女の宅急便」で出てきそうな町並みです。

人々がのどかに語りいながら楽しそうに歩いています。

他のメンバーには、その町がのどかな日本の田舎のように見えたり、豊かな草原が広がる街並みのように見えているようです。

アシュタールのマスターが語ります。

「町の形は様々に見えますが、それは皆さんの心の中にあるユートピアの姿を現しています。

日常の中で、愛にあふれ、お互いを思いやっ
て生きる事が大切な事です。

それは決して、私達の世界からかけ離れたものではなく、皆さんの心の中にあるものです。」

私達は、それぞれの思いの中にあるユートピアを歩いているようです。

やがて、町の中心にある小高い丘の上に来ました。

そこには小さいけれど美しいクリスタルでできた神殿があります。

中に入るとさんさんと暖かい光が神殿を埋め尽くしています。

神殿の中には、アシュタールの最高次元のマスター達が数名で話をしています。

私達が到着すると、皆さん笑顔で、両手を開いて私達を歓迎してくれていますので、私達も、彼らに感謝の気持ちを伝えます。

私達が神殿の中に入ると、神殿の天井から、美しい光が降りてきて私達を照らします。

私達は、その光に導かれるまま上の次元に上がると、そこには、とても美しい女神が立っています。

白い衣装に身を包んだ女神は、まるで「自由の女神」のように、優しくきりっとした姿で私達を迎えてくれました。

「皆さんが、アシュタールの世界に来てくれた事を深く感謝します。

皆さんが、自分達の心の中に、愛を満たせば満たすほど、皆さんと私達の世界は近くなります。

あなたの中の愛は無限です。

与えれば与えるほどその愛は大きくなり、あなたを高めます。

もしあなたが、他の人の心を惑わすような欲

にとらわれてしまうと、あなた方の愛の光は消えてしまいます。

どうか、あなた方をコントロールしようとする光とはつながらないでください。

そのような光をしっかりと見極め、そのような光に惑わされずに自分の心を純粹に保つ勇気を身に着けてください。

皆さんは、様々な試練や困難を体験するかもしれませんが、それはすべて、あなた方の中にある愛をさらに深めるためのものです。

あなた方に、越える事ができない障害や困難は起こりません。

すべてが、あなた方をより高次の世界に導くためのものなのです。

そして、その事をどうか楽しんで行ってください。

あまり深刻にならずに、軽やかに超えていってください。

悩みや不安は、皆さんの意識を低め、愛の世界から遠ざけてしまいます。」

女神はそのように伝えると、大きな羽をひろげ波のように動かします。

その羽からはキラキラとした光があふれ出て、私達の心を包みます。

私達の中から涙があふれ、人間として生きてきた苦勞や苦しみ悲しみが洗い流されていくようです。

PART4 アシュタールの王子様

私達は、アシュタールの女神と共にさらに上の次元に入っていきます。

そこにはまるで星の王子様のようなマスターが立っています。

頭には、星の冠をつけ、星の形をしたものを

つけたワンドを手に持っています。

彼は、光の中で様々なものに姿を変える事ができるようです。

おそらく、銀河のマスター達もたくさん来ているので、それぞれのマスターに合わせて姿を変えているのかもしれませんが。

王子様は、私達の頭をポンポンと楽しそうに、星のワンドで触れていきます。

すると私達の中に、とっても楽しくて明るい光が広がっていきます。

王子様は、まるで無邪気な子供のようです。

「そんなに深刻にならないで、もっと自由に、もっと楽しく生きてください。

自分自身をがんじがらめにしている制限から自由になると、楽しい事が向こうからやってきますよ。

笑いや喜びの数が増えれば増えるだけ、あなたは幸福になりますよ。」

王子様の無邪気な笑顔に誘われて、私達も笑顔を浮かべます。

私達は、しばらく楽しい時間を王子様と過ごしてから、ゆっくりと次元を下ってアシュタールの神殿へと戻ってきました。

今日はアシュタール族の最高次元にまで導かれていく事ができました。

私達は、またフェニックス号に戻り、ユニバーサル・パレスへと戻ります。

今日はアシュタールの事もそうですが、以前からお会いしたかったレプテリアンのマスターともお会いできて、レプテリアンの目的が理解できた事はとても大きな収穫でした。これで、レプテリアンに対して、不安や恐れもなく立ち向かっていけると思います。

第7章 惑星型宇宙船の動力

源 オリオン座



PART1 再びオリオン座へ

今日の星のツアーでは、私達は再びオリオン座に向かう事になりました。

オリオン座は、シリウス星がある大犬座のすぐ横にある星座で、私達が、以前行った星のツアーの第2回目のシリーズである「ペテルギウスのダイヤモンド」の舞台になった星座です。

このオリオン座の中心となるペテルギウス星は、偉大な創造主がいらっしゃる星です。このオリオン座を中心とした大犬座やふたご座、ぎょしゃ座などは、この宇宙に多くの生命を生み出し星々の創造を行う大切な星座達がそろっています。

前回は、リゲル星のマスターが闇にとらわれ、リゲル星はもちろん近くにあるウサギ座まで破滅に追いやってしまいました。

私達は、リゲル星のマスターを救出し、地表

に7個あるマザークリスタルを整え、またリゲル星の天空の塔を再建しました。

その結果、リゲル星も立ち直りオリオン座の働きは、元に戻っていったのです。

今回は、このオリオン座のマザークリスタルを新たな物に取り換え、さらにオリオン座の働きを、さらに高次なものにしなければなりません。

私達はフェニックス号に乗り込んで、オリオン座に向かいます。

まずは久しぶりにリゲル星に向かいます。リゲル星の天空の塔と呼ばれる場所に、このリゲル星を統治する女神ラプンツエルがいます。

天空の塔とは、星の地表から高くそびえたち、リゲル星の上の次元まで到達している塔で、この星の女神がその中に自由を奪われて閉じ込められていたのです。

その女神の事をアニメの映画に出てくる姫の名前を借りて、ラプンツエルと呼んでいます。

女神ラプンツエルはとても晴れやかな表情で私達を迎えてくれます。

もうすでに、私達が来る事を知らされていたようで、意識のマスター、感情のマスターと呼んでいる2人のマスターを伴って待っていてくれました。

この2人のマスターは、以前、自己中心的な欲望から闇に落ちてしまったのですが、私達に助けられて元のように活動しているマスターです。

彼らは、今ではとても元気そうでにこやかな顔をして、前回のお礼をいってきます。

彼らは、私達には頭が上がらないのです。

さて私達は、すぐに仕事にかかる事にしました。

この星の地表には、ラプンツエルの天空の塔を中心として、7つのマザークリスタルがあります。

最初に、巨大なホーリー・クリスタルを、天空の塔に設置します。

この塔のクリスタルは、他の場所のクリスタル達へ高次元の光を伝える役目をするクリスタルですから、とてもパワフルで高品質のものを設置しなければなりません。

次に、フェニックス号で各地を回りながら、他の6つのマザークリスタルを新しいホーリー・クリスタルに変更していきます。

私達は、フェニックス号が他の場所を回っている間に、リゲル星のクリスタル・ドームに入り、星の様子を調べます。

クリスタル・ドームには、三角形に配置されたクリスタルがあります。

この形からすると、どうやら、このリゲル星は自然の星ではないような気がします。

女神は元気な様子で私達を迎えてくれます。

「皆さんがこの星を再び訪ねてくださる事を心からお待ちしていました。

以前来ていただいた時から比べると、皆さん本当に立派になれています。」

女神が、私達の成長を見て、とても喜んでいるようです。

確かに、あの時は、宇宙の事を何も知らない駆け出しでした。

「今日はこのオリオン座の働きをさらに高めるために、私達のマザークリスタルを交換して新しいものにしてください。

そうする事で、さらに星の次元も上がりこの

オリオン座のドラゴン達も目覚めてくる事でしょう。」

私達は、クリスタルの交換が終わった頃を見計らってフェニックス号を呼び、この3つのクリスタルを新たなマザークリスタルと交換しました。

そしてもうすでにオリオン座の上空で待機しているユニバーサル・パレスにお願いして、リゲル星の上空に来てもらいました。

ユニバーサル・パレスからラプンツエルの天空の塔を通してこの3つのマザークリスタルへ光が送られます。

光は大きな柱となって、天空の塔を突き抜けてリゲル星の中心までつながっていきます。そして、天空の塔からはリゲル星の他の6つのクリスタルへ光がつながっていきます。

クリスタル・ドームの3つのクリスタルの上に、黄金色の光があふれ、オリオン座のドラゴン達も目覚めてきます。

さらに光は新しい世界へとつながっているようです。

おそらく、このリゲル星やオリオン座に関係があるマスター達がいる世界へとつながっているのでしょうか。

私達は、その光をたどって上の世界に入っていきます。

すると、そこに待っていたのは「鳳凰のマスター」でした。

光輝く羽を動かしながら、私達に光を送っています。

私達は、鳳凰のマスターの光をリゲル星とオリオン座につなぐ事にしました。

PART2 小さな植物達のDNAを作る星

私達は、リゲル星を後にして、サイフ星へと移動しました。

ここではホビット達が出迎えてくれます。ホビットのマスターに尋ねると、この星では、とても繊細な植物達の染色体やDNAを作っているとの事です。

コケや野草、原始的な植物達ですが、彼らには星を緑の生態系に変えていくという大切な役目があります。

彼らの働きがなければ、星はそれ以上の植物や動物達を生みだす事ができないのです。彼らは見かけこそ小さいのですが、星の自然生態系を生みだしていく強力なパワーを持っています。

ホビット達もこの星で多くの素晴らしい植物達を育てる事ができてうれしそうです。私達は、サイフ星のクリスタル・ドームに入りました。

そこは通常のクリスタル・ドームと異なって大きなマザークリスタルがなく、小さなクラスター状のクリスタルがたくさん生えています。

ここは、クリスタルの交換は難しいようですので、ユニバーサル・パレスから、そのまま光をおろしてもらい、クリスタルのパワーを強化してもらいます。

私達は、ペテルギウス星の横にあるメイサ星にも入ります。

ここは、とても自然豊かな星のようで、ホビット達やフェアリー達がくつろいで遊んでいる様子が見てとれます。

どうやら、メイサ星は、ホビット達が生れ育ったり休息をとるための星のようです。

PART3 人工惑星の動力源 ペテルギウス星

私達は、オリオン座の中心的な星であるペテルギウス星へと入ります。

ここはオリオン座が活動するためのエネルギーの動力源となっている星のようです。

私達は、ペテルギウスの地表に大きなホーリー・クリスタルを設置した後、クリスタル・ドームに入りました。

この星のドームには、人工的な感じがする六角柱のクリスタルが何個か並び、神聖幾何学を描くように配置されています。

私達は、宇宙工学に詳しくこのオリオン座の出身であるベラトリックスとマスターA を呼び出します。

オリオン座のシステムは、主にベラトリックスのグループによって作られたシステムのようです。

私達は、彼らにお願いして、ホーリー・クリスタルの交換と機械の修理を行ってもらいました。

私達は、さらにこの星の深部に入っていくと、地下に大きな真っ白い巨大な機械があります。

ベラトリックスによると、これは鳳凰族が使用する機械の動力源で、鳳凰のマスターから送られてくるエネルギーをここに蓄え、ペテルギウスやほかの星が活動する時に、このエネルギーを使用するようです。

またこの星のエネルギーは、ユニバースの根源の世界ともつながっているようです。

この宇宙の中には、どれほど機械的に作られた星があるのかわかりませんが、それらは、宇宙が存続するためのシステムの一部として作り出され、宇宙をしっかりと運営するために協力し合って活動しているようです。

オリオン座のペテルギウスと3ツ星は、そのような人工的な星にエネルギーを供給し運行を助けるために作られた惑星型宇宙船（人口惑星）のようです。

私達はペテルギウス星のホーリー・クリスタルとマザークリスタルを交換すると、次の星に向かいます。

PART4 先進的な宇宙工学の星 ベラトリックス星

私達は、ベラトリックス騎士団の本拠地であるベラトリックス星へと入ります。

私達の活動の中でも大変重要な働きをしているベラトリックスとその騎士団はこの星の出身ですが、私達はまだこの星に一度も来ていない事に気づきました。

このベラトリックス星は、自然の星のようで緑豊かな自然もありますが、星の中心地にはとても巨大な施設があります。

そこでは、宇宙船やその動力源を作るための宇宙工学や物理学などの最新の研究施設があるようです。

都市の中に入ると、たくさんの人達が多くの機械の中で働いている様子が映ります。

中には宇宙船の部品と思われるようなものを作っている場所や機械のプログラミングを行っているような場所もあります。

恐らくこの研究施設で培われた技術がフェニックス号に使用されているのではないのでしょうか。

この研究所は、マスターA 達の研究施設とは異なり、鳳凰のマスター達によって開発されたエネルギー源をもとに星々の運行システムを作り上げているようです。

私は今まで考えもしなかったのですが、ベラトリックスは、鳳凰族の優秀なマスターの1人だったようです。

彼らは、他の多次元宇宙から、天の川銀河に来て、このオリオン座を中心に活動している鳳凰族のメンバーだという事です。

私は、ベラトリックスに、「あなたも鳳凰の羽を持っているのですか、」と尋ねました。するとベラトリックスは、騎士団の制服を脱ぎ、私達に素晴らしく美しい鳳凰の羽を見せてくれました。

私達はベラトリックス星の都市の中心部に特別なホーリー・クリスタルを設置します。そうする事で、フェニックス号にも常に高次のエネルギーが送られ、フェニックス号の働きを高める事ができるそうです。

私達は、ベラトリックス星の他の都市や研究施設にも、フェニックス号で向かい、次々と新しいホーリー・クリスタルをおろしていきます。

フェニックス号の大切な仕事の一つが、このように、星の次元を高め、その働きを強化するために、星のホーリー・クリスタルを交換する事なのです。

私は、このフェニックス号を作る時に、アルゴ船座のマスターから、マザークリスタルを運ぶ船を作らなければならないと、言われた事を思い出しました。

その時は、それがどのような意味を持つのか気づきもしませんでした。今となれば、私達がこの天の川銀河をさらに高次の銀河に発展させるために、大切な仕事をするための宇宙船だったのです。

そしてフェニックス号は、鳳凰族の宇宙工学の技術によって作り出された最新の宇宙船であり、またフェニックス号が出来上がる事により、鳳凰族も自分達の工学技術に関わる星々を次元上昇させ、天の川銀河を運営するシステムをさらに高度な物にする事を可能としたようです。

宇宙の仕組みというものは、私達の理解をはるかに超える素晴らしいシステムで動いているのです。

ベラトリックス星のホーリー・クリスタルを交換し終ると、私達はベラトリックス星の地下にあるクリスタル・ドームへと入りました。そこには大きなマザークリスタルがあり、そばには女神もいます。

彼女も鳳凰族のメンバーでこの星の惑星意識をになうための存在です。

彼女の役目は、この星の動力源を守護しパワーを高めていく事ですので、私達はここにも巨大なマザークリスタルをおろします。

PART5 鳳凰の羽を守るダビト星

次に私達は、オリオン座の中心から少し離れたダビト星へと向かいます。

この星は、メイサ星と同じく自然豊かな星なのできっと人工的ではない自然の星なのでしょう。

私はこの星のマスターを呼び出して、この星の役割を教えてくださいました。

「この星は、鳳凰族の人達が持つ羽を守護し強化するためのエネルギーを作り出します。鳳凰族が属している根源の世界から光を引いてきて、それを特別な方法で変容します。するとそのエネルギーは、鳳凰族の人達が持つ羽を覆い特別な力を羽に与えます。その働きによって、鳳凰族の人達はどこにでも自由に飛んでいく事が出来るのです。」

私達はこの星のホーリー・クリスタルも交換します。

その時、星の中心に美しい湖がある事を知りました。

湖の中心には大きなクリスタルの原石のようなものがどっしりと顔を出しています。

沢山の鳳凰族の人達が、美しい羽根を広げ、その湖の水を羽に含ませたり、湖の中で羽を優雅に動かしたりしています。

また数名の鳳凰族の人達は、クリスタルの上で体を横たえ、気持ちよく休んでいます。

きっとこの湖に見える場所の水が、人工的に作られた特別のエネルギーなのでしょう。特別な成分で作られた水に羽を付ける事で、鳳凰の羽を浄化し光を高め、その働きを充分に発揮させる事ができるようになるようです。

美しい鳳凰の人達が、安らいでいる様子がとても印象的な星です。

PART6 オリオン座の「三ツ星」の働きと鳳凰のマスター

私達は、最後にオリオン座の中心となる「三ツ星」に入ります。

以前の星のツアーの時には、この「三ツ星」を守る若きマスター達が、リゲル星のマスターによって侵略されたウサギ座の精霊達を助けに行った時、救出に失敗して、闇の力によってウサギ座の星に封印されていた事がありました。

私達は彼らを見つけ、その封印を解き放ち彼らを助けました。

そして、彼らをこの「三ツ星」に連れて帰ってきた事があります。

私達が「三ツ星」に入ると、マスター達はすぐにやってきて、私達をもてなそうとします。私も彼らの顔を見るととても懐かしく感じます。

「皆さん、お元気でしたか、この星に戻り自分達の仕事をしっかりとなさっているようで何よりです。今日は鳳凰族のマスターと共に、このオリオン座のクリスタルをさらに素晴らしいものに交換して、オリオン座の働きを高めるためにやってきました。」

「三ツ星」のマスター達も大喜びで、私達を迎えてくれます。

私は、少し気になる事をきいてみました。

「三ツ星」のマスター達も鳳凰族のメンバ

「なのですか、ここには羽を持っている人とそうでない人達がいるようですが・・・」

「三ツ星」のマスター達は答えます。

「私達は、鳳凰族と元から住んでいた人達の混血です。

このオリオン座には、もともと住んでいた人達がいる、鳳凰族が自分達の星に降り立った時、鳳凰族のマスターに忠誠を誓い、共に活動しているのです。

鳳凰のマスターはやがて、自分達と元から住んでいた人達との間に新たな種族を生みだし、オリオン座の星々の物理次元におけるマスターとしました。

私達「三ツ星」を預かる者達もそうですし、リゲル星のマスター達も鳳凰族と元から住んでいた人達の混血です。

ただし、天空の塔のマスターだけは、純粋な鳳凰族です。

彼女は鳳凰のマスター達と直接コンタクトを取り、リゲル星を統治しているのです。」

私はそのことに驚いて聞きました。

「という事は、ラプンツエルは、鳳凰の羽を持っているのですか？」

「もちろんです。いつもはドレスの下に隠していますが、それは美しく立派な羽を持っています。」と「三ツ星」のマスターが答えます。

私は、フェニックス号にこの「三ツ星」のホーリー・クリスタルとマザークリスタルを交換するように指示を出し、もうしばらく、「三ツ星」のマスター達と話をします。

やがてクリスタルの交換が終わると、これでオリオン座の主要な星のクリスタル交換が

終了した事になります。

私達はここから、オリオン座全体の次元上昇を行います。

各星にマスターと騎士団を派遣し、クリスタルへ光を導いてもらいます。

魔法使い達には星座の上に神聖幾何学を描いてもらいます。

ユニバーサル・パレスから今までに見た事もないような光が次々と放たれ、1つ1つの星々を美しい光でつつみこんでいきます。

そして、巨大な鳳凰がオリオン座の上に降り立ち、星々のホーリー・クリスタルを活性化するかのようにパワフルな光を送っていきます。

「三ツ星」の上に新たな次元が開かれます。そこに入ると、大きな羽を広げた鳳凰族のマスター達が3人立っています。

私達は彼らのハートと私達のハートを光りでつなぎます。

「あなた方が、このオリオン座のクリスタルをさらに高次のクリスタルに交換してくれた事に、深い感謝の気持ちを表します。

この「三ツ星」の働きは、オリオン座全体で作りに出されるエネルギーを統合し、目的に合わせて変容させる事です。

そして変容させられた光はリゲル星に送られ、光の道を通して、他の星のマザークリスタルや星のエネルギーの貯蔵庫に送られます。

星々は、この鳳凰族によって作り出されたエネルギーによって、その星が本来持つエネルギーが高められ、その働きを最大限に発揮します。

特に人工的に作られた星々は、宇宙にとつて

重要な役割を担っていますから、このオリオン座から送られる動力が必要なのです。このオリオン座から光が届かなければ、星型宇宙船や人工惑星は活動を維持する事ができなくなり、宇宙のシステムにとっても大きなダメージを与えてしまう事になるでしょう。」

私達はこのオリオン座にさらに光を満たすために、ユニバーサル・パレスとフェニックス号をオリオン座の上空に呼び寄せ、光を送ります。

そして私達の魔法使い、騎士団、マスター達によってオリオン座の次元上昇が始まります。

鳳凰の光もさらにまぶしく輝き始め、オリオン座の星々の光もどんどん大きくなっていきます。

やがてオリオン座はオーロラの光に包まれ始めました。

オリオン座全体がゆっくりと次元上昇をはじめ上がっていきます。

これで、私達の今日の仕事は終わりのようです。

オリオン座が安定すると、私達はフェニックス号で地球へと戻ります。

第8章 星々に光を送るプリ

ズムと愛を送る星

PART1 宇宙の星々に光を送るプリズム

私達は、オリオン座において、星々へ光を送る働きが活性化された後に、個人のアチューメントをおこなっている時に来てもらいたいところがあるからと言われ、キング・オブ・サンのマスターと共に光の通路を通ってある宇宙空間に向かいました。

私達がついた場所には、とても大きな光のマカバのようなプリズムが回転しています。今迄に見たこともない装置ですが、とても重要な役目を持っている事だけは分かります。私はこの装置がなんであるか、尋ねました。

マスターがにっこりと笑って答えます。

「この装置は、宇宙に存在する星々へと光を送るためのものです。

皆さん方の働きにより、この天の川銀河の人々はとても意識が高くなり、星々も大変素晴らしい働きをするようになってきました。それにつれて、天の川銀河以外の局部宇宙もどんどん進化していきます。

前回オリオン座の働きがあなた方により活性化されました。

オリオン座は天の川銀河を中心として宇宙のシステムを運営するための原動力になる星々です。

オリオン座が修復された事により、宇宙のシステムがさらに高次の働きを行えるようになりました。

このマカバのような光のプリズムは、オリオン座と協力し合って星々に光を送るためのものです

このマカバから発せられる光が宇宙の星々にパワーを与えていきます。

そのために、この光のマカバもさらに高いエネルギーを送る事ができるように調整していただきたいのです。」

たしかに、このマカバの光はとても大きく宇宙の隅々まで届いていきそうなくらい強いものがあります。

私は、すぐにフェニックス号に来てもらい、鳳凰の種族であるベラトリックスやマスターAに集まってもらい、この光を送る機械を修理してもらいます。

ユニバースの次元がどんどん上がっていくために、このマカバから発する光も、さらに次元が高いものにならなくてははいけません。

鳳凰族を中心にこの機械のバージョンアップが行われています。

わたしは、修理の具合を見計らって、偉大なマスター達の光をここに呼び込みます。

この光は、オーロラ族達が深くかかわっているようです。

オーロラ族の最高次元にあるマスターをはじめ、キング・オブ・ライト、キング・オブ・サン、クイーン・オブ・ムーンの3大マスター、そして宇宙の物理的なエネルギーをうみだす4大エレメントのマスター達を中心として、このプリズムに光を送っていきます。

プリズムの修理が終わったようです。

私は、ユニバーサル・パレスを、プリズムの上空に配置して、最高次元のマスター達の光を、このプリズムに降ろしてもらいます。

ユニバーサル・パレスの光が、このプリズムに当たると、このプリズムからとても大きな光が各方向に反射されていきます。

その光は天の川銀河を超えて、さらに遠くの銀河や星団にも届いていくようです。

各銀河や星団のマスター達もその光を自分達のもとにどんどん満たしていきます。

とても大きな光が、この宇宙に満ち溢れていく事になりました。

PART2 宇宙の星々に愛の光を送る星

私達は、この後、宇宙の星々に大きな影響をあたえる、もう一つ大切なシステムがある事を知らされました。

グレート・ブッダが、私達の前に現れ、魂が囚われている人達がいるので、その魂を開放する手伝いをしてほしいと言われ、大熊座の北斗七星のすぐ近くにある星に連れてこられました。

中に入ると星というよりも大型の宇宙船のような感じでした。

そこで働いている人達も、ホビットと鳥のミズクのような頭をした人達です。

私はまず、ここで働いている人達の事が気になり、グレート・ブッダに聞いてみました。

「ここで働いているメンバーは、もともとは鳳凰族の人達と大熊座の人達の混血によって生み出された種族です。

天の川銀河にも、この大宇宙の根源種族がたくさんやってきています。

鳳凰族は、その中心的な種族ですが、オーロラ族やフェアリー族、ワシ族もいます。

それらの種族が、天の川銀河のもともとの種族と遺伝子を交換し合って作られた種族達が存在しているのです。

このミミスク族達もそうです。

本来は、名前も姿も異なりますが、その特性によりわかりやすい姿でお見せしています。」

つづけて、グレート・ブッダはこの施設の事について説明してくれました。

「ここは、天の川銀河の星々の中で、愛を必要としている種族に愛のエネルギーを送るための施設です。

星々に生きる人達の中で、苦しみや悲しみに囚われている人達がいれば、そこに愛を送り、開放する事ができます。」

グレート・ブッダは、宇宙船の中を歩きながら、指令室のような所に私を案内してくれました。

そこには、たくさんのコンピューターのような機械といくつものモニターが置いてあり、それぞれのモニターには、さまざま星の姿が映っています。

「私達は、ここで局部銀河の中にある銀河や星団、そして星々の様子を観察しています。星に愛が枯渇してくると、星の光がよどんで見えますので、そこに光を送ります。

しかし問題が一つあります。

それは、星の中心となるマスターや女神が愛から遠ざかってしまうと、このシステムでは愛を送る事ができなくなります。

そのようなときは、私達は直接その星に出向き、マスターや女神達を導き、愛の光とつなげなくてはなりません。

私の中の一部である「仏陀」が地球に降り立ったのもそのためでした。」

グレート・ブッダが、星が映っているモニターの一つを指さしました。

「問題はこの星です。

この星には、多くの優秀なマスター達がたくさん閉じ込められています。

どうやら、マインド・コントロールを受けて、自分達は「愛を受け取る事ができない罪人」であると思いこんでいます。

私達が、いくら愛を送っても、彼らは受け取ろうとせずし、頑なに光と接触する事を拒んでいます。

彼らの中には、この局部銀河にとってとても重要なマスターもいるので、ぜひ助けてあげていただきたいのです。」

PART3 かに座の牢屋に閉じこもった人々

私達は、状況を確認した後に、その星にフェニックス号で向かう事にしました。

フェニックス号で移動している間、愛を見失った人達にどのように接すればよいか考えています。

やがて、フェニックス号は、かに座の γ （ガンマー）星と思われる星に到着しました。

見るからに荒れ果て、中央に大きなクレータのようなものが見えてきました。

クレータの近くによると、そこは大きな牢屋のようにも見えます。

檻の後ろに、たくさんの人がうずくまっています。

どうやら、自分達自身で、この牢屋の中に閉じこもり、自由になれないと思い込んでいるようです

私は、数名のメンバー達とともに船を降ります。

ともに行くメンバーは、精神的な呪縛をとる事を目的に魔法使いやゴッデス・ダナ、ゴッデス・レイ、そして癒しの女神達もともに連れて行きます。

私は、彼らのマインド・コントロールを解くために、みんなでお芝居をする事にしました。それは救世主が、彼らの魂を救いに来たという設定です。

私達は、光り輝くエネルギーで全身を満たし、彼らの牢屋の前に立ちます。

「私は、皆さんを救いにきました。皆さんはとても深い罪を犯し、ここに閉じ込められました。皆さんの罪は許されるものではなく、自らの命を懸けてここで償わなければなりません。」

牢屋の中の人々から深いため息と安どの感情が流れてきます。

やはり、自分達が許されないのだという事を信じきっているようです。

「しかし、あなた方に偉大な神から許しが出ました。

あなた方が、長い間この場所で苦しみに耐えてきた姿を神はごらんになり、あなた方を許そうとおっしゃいました。

あなた方の罪を許し、あなた方を自由にします。

もしあなた方が、神の言葉を信じないのであれば、あなた方はこの場所に取り残される事でしょう。」

魔法使いやゴッデス達が牢屋の周りを取り囲み、彼らのマインド・コントロールを解く

ための光を送っています。

彼らの顔色に少しばかりの生気が戻ってきます。

「あなた方の罪は許されます。

あなた方が犯した罪を償うための機会が与えられます。

そのために、ここから出てきてください。」

牢屋の入り口の周りには大天使達も舞い降りてきました。

フェニックス号からも、大きな光がこの場所に放たれてきます。

牢屋の出入り口の近くにいた男性がよろめきながら立ち上がります。

そして、檻を伝うようにして牢屋から出てきました。

周りをうかがうようにゆっくりと外に出てくると、天使達から祝福の光が彼を取り囲みます。

彼の表情がどんどん変わっていきます。

悲惨な重苦しい絶望的な表情だったのが、天使の祝福を受けて、喜びに満ち溢れた表情に変わってきました。

その様子を牢屋の中から見ているほかの人達が、一斉に立ち上がり、牢屋から飛び出してきます。

さらに多くの天使達とマスター達が現れてきます。

おそらく彼らの事をずっと見守っていたマスター達のように。

牢屋から出てきた人々は、皆さん、自分達の罪が許された事に対して大きな喜びを持っています。

天使達に囲まれ、涙を流しながら光を受けつ

ています。

迎えに来てくれたマスターに抱き留められて泣いている女神のような存在もいます。

空を見上げると、ユニバーサル・パレスもここにきています。

きっと、ここに閉じ込められたマスター達を元の世界に戻すために来てくれたようです。パレスから美しい虹色の光が、この星におろされていきます。

そして、閉じ込められていたマスターや女神達が、迎えに来てくれたマスター達と共に、ユニバーサル・パレスから送られる光の中に吸い込まれるようにして消えていきます。

グレート・ブッダは、その様子を見ながら嬉しそうに語ります。

「あなたのおかげで、大切なマスター達を助ける事ができてよかった。

彼らは、誰かが彼らの事をだまして、自分は救われなれないと思いこませたのです。

彼らから発せられる感情は大きなひずみとなり、このかに座に大きなゆがみを作ってしまった。

そのために、かに座もバランスを壊してしまい、本来の働きをする事ができなくなってしまったのです。

彼らが、元の星に戻る事で、彼らも自分本来の働きをする事ができるようになるでしょう。

それは、私達にとっては、とても大切な事なのです。」

私は、彼らの感情によって荒れ果ててしまったこの星を自然豊かな星に再生するために、シルバーボックスを使用する事にしました。箱を開くと、この星の生命力が高まり、雨が

降り川が生まれ、山や野原も生まれてきます。
やがて川は湖や小さな海を作ります。
そして自然の植物達が息吹き、小さな動物達も生れてきます。
海では魚達も泳ぎ始め、空には鳥達も舞い踊り始めました。

これで、この星もまた美しい星へと戻る事ができます。

今度はきっと、自分自身とこの星を愛する事ができる人々達がこの星に生まれてくる事でしょう。

私達は、再び愛を送る宇宙船へと戻る事にしました。

第9章 フェアリーが生れる 場所

PART 1 妖精達と動物達

今日のツアーのために創造主の神殿に入ると、大犬座からやってきたマスターが私達の前に進み出てメッセージを伝えてくれます。

「今日は、大犬座にある動物意識の次元を開いて光を満たしてください。

宇宙に生きる多くの生命達、ドラゴンや動物、そして精霊達にも、もっと光が必要です。

そして、動物達の世話をしてくれるフェアリー達の光も、もっと強化して広げてください。」

さすがに大犬座のマスターらしく、動物達に対する思いが伝わってきます。

私達は、他のマスター達からも意見をもらい今日の活動の予定を作ります。

最初に、白鳥座に行きフェアリー達の働きを活性化する事、そして大犬座に向かい動物達の潜在意識につながる次元の扉を開き、ユニバーサル・パレスや白鳥座のフェアリーと光を繋げていく事を確認しました。

私達は、白鳥座のデネブ星に向かいます。デネブ星は、フェアリー達の星で、フェアリーの女神アルターニャが見守っています。私達も何度も訪問していますのでなじみの深い星です。

デネブ星に着くとたくさんのフェアリー達が、美しい花々の間を飛び交い遊んでいます。小さな動物達も、樹木の間から顔をのぞかせています。

全てが美しく純粹で、優しさと愛に満ちあふれた星です。

私達は迎えに来てくれたフェアリー達と共にアルターニャが待つ宮殿へと向かいます。先日も、私達はここにきてフェアリー達の数が少なくなってきたので、新しいフェアリーの種族を作ってくださいとお願いされたばかりです。

その時は、フェアリーの中でも、星々の創造のお手伝いもできるフェアリーエンジェルと呼ばれる種族を作り上げました。

フェアリーエンジェル達は、動物や植物のお世話もできますが、私達のような人類の指導をしたり、星々の環境を整える働きもする特殊なフェアリーです。

今日はこのフェアリーエンジェル達も、勢揃いして私達を迎えてくれています。

アルターニャに挨拶すると彼女もとても喜んで私達を迎えてくれます。

私が今日来た理由を話すと、彼女もその事に同意してくれたようです。

「あなた方の活躍により、多くの新しい世界が生まれ、またその世界にふさわしい新しい種族も誕生してきました。

私達フェアリーも、皆さんの助けになるように、新しく生まれた星々へ向い、陰ながら手助けをさせていただいております。

先日あなたが、作ってくださったフェアリーエンジェル達もたくさん生まれ出て、自分達にふさわしい場所へと、どんどん旅だっています。

新しく開かれた世界では、叡智ある存在と動物や植物達、そしてフェアリー達もバランス

よく活動していますが、古くからある世界では、人々と動物達やフェアリー達の間で、大きな摩擦が生じているところもあります。皆さんが住む地球もそうです。

人々と共に幸福に暮らしている動物達もいれば、生命の危機に瀕し苦しみと悲しみの中で生きている動物達もいます。

傷ついた動物達の意識は、その動物達の集合意識の中に交じり合い、その集合意識が健全である事を妨げています。

私達フェアリー達は、動物達の心を癒し、集合意識をクリアーにしていく事を行っていますが、動物同士の中でも、その意識の差が大きく、エネルギーの調整には手間取っています。

皆さんが、動物達の集合意識に働きかける事ができるならば、彼らにもっと愛と光を送ってください。」

フェアリーの女神アルターニャの言葉に、胸が熱くなります。

私達はまず、フェアリーの事をもっと知りたいたので案内してくれるように女神にお願いしました。

PART2 フェアリーが生れる場所

私達は、妖精の女神アルターニャと共に、神殿の奥の扉から中に入っていました。

そこには、とても優雅で美しい光が満ちていました。

フェアリー達の新しい意識と神聖なる意識が一つに融合されているような光です。

この光は、フェアリーの原型となるような光

で、ここからフェアリー達がたくさん生まれ出てくるようです。

美しい虹色の光が、姿や色を変えながら優雅に舞い踊ります。

この光は、創造主のとても高い次元とつながっているようですので、見ている私達にも優しいエネルギーが流れ込んでいます。

ふと横を見ると、とても美しくかわいい姿をした女神が、にこやかに笑いながら立っています。

フェアリー達を創造する女神のようです。

「皆さんが、私達のフェアリーの世界に来てくださって、とてもうれしく思います。

私達フェアリーは、この宇宙の中でもとても古い種族です。

とても古い時代から、創造主や偉大な神々と共に、多くの植物や動物達を生みだし育てるためのお手伝いを行わせていただいております。

それが私達にとって大変な喜びです。

あなた方が、私達のフェアリー達をたくさん救ってくれた事も、アルターニャから聞いてよく知っています。

本当にありがとうございます。」

私達は、このアルターニャの神殿の中にある、フェアリー達を生み出す女神とハートを一つにします。

そうする事でいつでも必要なときに話をしたり会ったりする事ができるのです。

私達は、さらに高い次元から光が降りてきている事を感じます。

さらに高次の場所があるようですので、私達

はその光に導かれて上の世界に登っていきます。

その世界に入ると、そこには、先ほどよりも、もっと多様な光が満ち溢れています。

そしてその光の中から、姿が異なるフェアリー達がいくつも生みだされています。

女神が現れると、私達を案内してくれます。

「皆さん、フェアリーの世界を訪ねてくださって本当にありがとうございます。

この場所は、様々な目的や働きに応じて、いくつもの異なるタイプのフェアリー達を生みだす場所です。

植物を育てるフェアリー、動物を育てるフェアリーのほかにも、先日あなた方が作り出してくれた星々の自然環境を作り出すためのフェアリーエンジェルや叡智ある存在達を導き癒すためのフェアリー達もここで生みだされています。

フェアリーは、この宇宙に生きる種族の中でも、最も純粹で美しい種族です。

常に、愛と喜びの光をそのハートの中に満たしている存在達なのです。

フェアリー達によって、植物も動物も愛を分け与えられます。

時として人間の子供達にも、フェアリーは愛を分け与えます。

地球では、フェアリー達が人間として生まれ、植物や動物達に愛を送ります。

そしてより高次に成長したフェアリー達は、人々へも愛を送ります。

それは地球の愛が枯渇しないように、フェアリー達が守っているのです。

皆さんの中にも、そのようなフェアリーさんがいらっしゃるようですね。」

女神は私達のメンバーを見てにこやかに笑っています。

そうなのです、私達のメンバーの多くがフェアリーの魂を持っているのです。

「この場所は、様々な次元から光が送られています。

その世界の特有の能力やパワーが、光としてフェアリーに送られているのです。

そしてそれらの光を融合する機械によって、いくつもの異なるタイプのフェアリーが生まだされていきます。」

女神が、この場所に送られてくる光の大元にあたるような場所がある事を教えてくれました。

その場所は、まるでピラミッドの頂点の様な姿にも見え、ここからピラミッド状にいくつもの光が降りているようです。

女神と共にその場所に入ると、そこには、いくつもの姿を持ったマスターが活動しています。

ここではフェアリー達を生みだすもととなる光を生み出しているようです。

PART3 フェアリーロード

さらに私達は、上の次元に登っていきます。そこには黄金色に輝く天女の様な軽やかな姿をしたマスターが待っています。

その光の様子はまるで黄金色に輝く観音仏にもみえます。

「あなた方がこのフェアリーを創造する世界を訪ねてくださった事を深く感謝します。

皆さんの働きのお蔭で、この天の川銀河やユニバースもどんどん次元が高まり、愛に満ちた星が増えてきました。

素晴らしい世界が新しく生まれてくる事は、私達にとってはとても大きな喜びです。

フェアリー達は新しい世界で、動物や植物達の世話をする事がとても好きなのです。

皆さんが先日、宇宙の中心にあるプリズムの次元を高めてくださった事は、私達とっても、大変意味のある事でした。

高次のプリズムが機能する事で、この場所から「フェアリーロード」と呼ばれる、フェアリー達を各星々に送るための、光の道が形作られていくのです。

私達はさらなる宇宙、さらなる次元に、必要に応じてフェアリー達を送り出し、さらに豊かな世界が生みだされるお手伝いをいたします。」

私達は、ユニバーサル・パレスとフェニックス号をこの次元の上に呼び、マスター達の光を、ユニバーサル・パレスのクリスタルと繋げます。

そしてそのクリスタルから、各銀河や星団に向かって光の道を作ります。

各銀河や星団につながった「フェアリーロード」はさらに、それぞれの銀河の中にある星々へと繋がり、フェアリーたちを特定の星々に送ることができるようになります。

そして、新しい星や次元が上昇していく星では、新たなフェアリー達が大活躍して素晴らしい世界を作ることができるのです。

第 10 章 動物達の潜在意識 が集まる塔



PART1 動物達の集合意識の世界

私達は、白鳥座の上の次元にあるフェアリー達の世界から、そのまま大犬座に向かいます。もちろん、フェアリーの女神の思いとフェアリーの光を胸に抱いて大犬座に入ります。フェアリーエンジェル達も、私達と共にフェニックス号に乗り込んでいます。

ここからは大犬座の守護者である女神アテネにガイドをお願いする事にしました。女神と共に私達は、ムルフェイン星の神殿の上を開いた次元の中に導かれていく事にしました。

ムルフェイン星の神殿から、美しい光が上空に向かって伸びています。

私達が入ると、周りに見える物は、すべてクリスタルの様にキラキラと輝いています。

花や緑の樹木も全てが美しく輝いています。さらに奥へと続く扉が開きます。

そこは、多くの動物達の集合意識へとつながる広間の様な場所で、その広間の周りに多くの扉がついており、その一つ一つが、犬や猫、ウサギなどの固有の種族の潜在意識とつながっているようです。

これらの動物達に愛と癒しのエネルギーを送る必要があるようです。

この広間の中央には、やはり大きなクリスタルがあり、このクリスタルから光がそれぞれの世界に送られているようですが、十分ではないようです。

私は、フェニックス号にお願いして、この広間のクリスタルをホーリー・クリスタルに変更してもらいます。

そして、ユニバーサル・パレスに、このクリスタルをめがけて光を送るように指示を出します。

新しくなったクリスタルが、パレスの光を受けて美しく輝き始めます。

私達も数多くの動物達のために祈ります。

すると広間の周りの扉が、一つ、そしてまた一つ開き始めます。

最初は小型の犬でしょうか、しっぽを振りながら出てきます。

そして猫やウサギ、リスや大型の犬達も、周りをうかがいながら出てきます。

これらの動物達は、その種族の集合意識を表しているようです。

クリスタルの周りに集まると、動物達の姿も光輝いてきています。

ホーリーエンジェル達はとてもうれしそうに、動物達の周りを飛び回っています。

ホーリー・クリスタルから、フェアリー達のエネルギーがひときわ強く広がっていきま

す。

動物達も心地よく目を閉じ、その光の中でゆっくりと癒されていきます。

彼らを通して、同じ種族の中に、光が広がり、種族全体の意識が癒されていくのでしょうか。

私はこのクリスタルと周りにいる動物達の集合意識を光でつないでいきます。

同じ天の川銀河に生きる多くの動物達が、常に癒され愛されるように祈りをこめて・・・

PART2 野生の動物達の意識

光が広間の中に満ちあふれると、ホーリー・クリスタルの光は、さらに上空に向かって放たれます。

すると、そこに新たな扉が開かれます。

私達は上の次元にも入ってみました。

そこもまた大きな広間になっており、中央には先ほどの階よりもさらに大きなクリスタルがあります。

私達は、このクリスタルも、フェニックス号が積んでいるホーリー・クリスタルと交換します。

ホーリー・クリスタルがこの階にも新しく設置されました。

ユニバーサル・パレスからも光が降りてきます。

フェアリーエンジェル達も共に祈りながら、周りの扉の中を覗き込んでいるようです。

やがて、ホーリー・クリスタルから、光が流れ始めると、いくつもの扉が開きます。

出てきたのは幾種類もの熊や鹿、象やライオン、トラ達など、自然の中にいる動物達です。

鷹やわし等の鳥達も大きな羽を広げて広間の周りを飛び交っています

下の階は、犬や猫など人間達の身近なところにいる動物達だったのですが、この階は野生の動物達の集合意識の集まりのようです。

動物達は、私達を警戒するように、私達の周りをゆっくりと回りますが、私達が彼らに危害を与えるような存在ではないと分かると、私達の事は無視するようにしてくつろぎはじめます。

フェアリーエンジェル達も彼らと会えたのがとてもうれしそうで、体を寄せ合ったりさすったりしています。

中には、鳥達と追いかけてっこをしているフェアリー達もいます。

あるいは、小さな動物達、ミーアーキャットや私達も見ただ事がないような動物達と遊んでいるフェアリー達もいます。

私達はここにいる動物達とクリスタルの光りをつなぎます。

自然の中で生きている神聖な動物達の意識が癒され、星々を守り導いてくれるように祈ります。

すると、この広間がとてつもなく大きい光とパワーで満たされてきました。

彼ら1人1人が、この宇宙の意志とつながると、私達には想像もできないようなパワーが生れてくるようです。

PART3 今は亡き動物達のスピリットの世界

私達はさらに上の世界に上がります。

この世界は今までの世界とは、まったく雰囲気

気が異なります。

とても静かで静寂な感じがします。

何かしら悲しみの感情さえもあふれています。

私は、ここにきて、この塔のマスターを呼び出して、この世界の事を尋ねます。

「今までの階は、とても多くの動物達の意識で満ちていましたが、ここはとても静かですがなぜですか、

ここにはどのような生命の集合意識があるのですか。」

現れたマスターは、私達を見て静かに答えます。

「この世界にいるのは、すでにこの宇宙の物理世界から、いなくなってしまった動物達です。

ある者達は、進化の過程で、その役割を終えて地上の世界からいなくなりました。

またある者達は、他の生物達の食糧となって滅んだものもあれば、急激な環境の変化により、その世界に生きていく事が出来なくなって滅んだ者達もいます。

今皆さんが住んでいる地球でも、今この時期に滅んでいく生命達もいます。

しかし、その事を悲しむ必要はありません。彼らは、スピリットとして生きていますし、また環境が整えば、彼らは星の地表に生れ出る事もあります。

どうかここにもホーリー・クリスタルをおろしてあげてください。

彼らのスピリットにも光が必要です。

彼らのスピリットが癒され、彼らがまた再生するためのパワーを得る事ができるように光を満たしてあげてください。」

私は、フェニックス号から新たなクリスタルを降ろしてもらい、この世界にも光を送れるように準備をしました。

フェアリー達も、ここでは陽気に舞い踊るのではなく、輪になって祈りの歌を歌い始めました。

とても荘厳で清らかな声が響き渡り、過去に存在した動物達の集合意識を癒し始めます。ホーリー・クリスタルも、美しく安らかな光をこの世界に満たします。

この広間のまわりにある扉が開かれると、「光の揺らぎ」の様な存在達が現れ、クリスタルの光とつながっていきます。

彼らは、すでに形こそ失われていますが、光としてこの宇宙を支えている存在である事には間違いがないようです。

PART4 神聖なる動物達の癒し

私達は、少し悲しい気分になりながらも、さらに上の次元に上がっていきます。

ここは先ほどの階と違って、悲しさや重苦しさはありません。

凜とした雰囲気満ちています。

神聖ささえも漂っている感じがします。

この階にもホーリー・クリスタルを設置すると、すぐに多くのユニコーンやペガサス達が現れてきました。

ここは、動物の形をした精霊や妖精、神々の世界のようにです。

ユニコーン達を見たメンバー達の顔が一瞬にして明るく輝きます。

フェアリーエンジェル達もうれしそうにユニコーン達にまたがったり、ペガサス達と一

緒に飛んでいるいる子もいます。

またマーメイドやドルフィン、くじら、美しい鳥や魚達、私達が見た事もない動物達もいます。

たとえば角が生えた猫や羽をもった様々な動物達です。

ホーリー・クリスタルが輝き始めると、この世界には瞬時に光があふれます。

それも愛の光、叡智の光、喜びの光、癒しの光・・・様々な色と働きに満ちた光が満ち溢れ、神聖なる存在達を光で埋め尽くしています。

この階ばかりは、かえって私達の方が、光とパワーをもらっているような気がします。

ユニバーサル・パレスの光が4つのホーリー・クリスタルを次々と光でつないでいきます。

各階に存在している動物達の潜在意識を癒し、活性化して光でつないでいきます。

さらに高次元のマスター達の光を呼び出し、ユニバーサル・パレスを通して、この動物達の塔へと送ります。

フェアリー達は、その光をフェアリーロードを通して各銀河や星団の星々にいる多くの動物達につなげていきます。

この塔のマスターが、私達にお願いがあります、と言ってきました。

「どうか、多くの動物達にこの塔の光を送って上げてください。

自らの意識で、しっかりと潜在意識につながっている動物達もいれば、まるで群れからはぐれた迷子のように、潜在意識から隔絶され、生きる力を失いつつある動物達もいます。

その中には、傷つき虐げられ、死の恐怖を味

わっている動物達もいます。

そのような動物達に、もっと愛を送ってください。」

私も、家で傷つき捨てられた猫達を拾ってきて面倒を見ているから、マスターの言いたい事は十分にわかります。

私は、動物達に対する愛をアチューメントとして、この世界におろす事にしました。

そしてそのためにはまず、この動物達に対する愛を表現するマスターが必要です。

しかも多くの動物の意識と高次のマスターの意識、フェアリー達の意識を一つにしていく事ができるマスターが必要です。

そこで、私はフェアリーの女神を呼び出し、そのようなマスターがいないか相談しました。

女神は、「そのような存在がいないわけではありませんが、そのマスター達も十分に仕事を果たしているわけではありません。

ここは、あなたの方で、より強力で高い次元に存在する新しいマスターを生みだしたほうが良いでしょう。」

私は、新しいマスターを創造する準備を始めました。

フェアリーの女神、鳳凰のマスター、そしてこの塔のマスター、フェアリーエンジェル達も合わせて、一つの光の中に統合していきます。

するとそこにとても優しい表情をした女神様が現れました。

私は、彼女を見ていると「ラメール」という名前が浮かんできました。

そして、アチューメントの祈りの言葉が、胸の中に浮かんできます。

この世界に生れ育ったすべての生命と、
この世界に生きる多くの動物達に、愛と癒し
の光を送ります。

私達が、全ての生命と共に生きていけるよう
に

全ての生命を癒し、愛で満たしてください

動物を癒す光のマスター ラメールよ

あなたの光りで、私達と全ての動物に光をみ
たしてください

ラブ・フォ・アニマル

ラブ・フォ・アニマル

ラブ・フォ・アニマル

11 章 叡智ある種族を生みだすメテウス

PART1 リラの種族のマスター メテウス

私達は、女神に、皆さんをフェニックス号に乗せて、リラの種族の上の次元にいきませんかと誘いました。

皆さん大喜びで、フェニックス号に乗り込み始めました。

フェニックス号に乗って、私達はリラの塔の上にある次元へと入ります。

光の道を通して上に上がっていくとゴールドに輝く光と出会います。

とても大きく偉大なマスターのようです。彼は自分の事を、ブラフマンの一部である「メテウス」と語ります。

彼はリラ族だけでなく、叡智ある種族を生みだす大切な役目を行うマスターのようです。ゴッド・メテウスは、私達を見るとうれしそうに語り始めます。

「私は今までリラの人々をとおして、このユニバース（単一宇宙）に叡智ある存在達を生みだし育ててきました。

リラの人達は、この宇宙が叡智ある種族をたくさん生みだし、進化していく為には、なくてはならない存在です。

今再び、リラの種族が戻ってきた事により、この宇宙にも新たな進化が訪れ、素晴らしい歴史が始まる事でしょう。」

メテウスの存在感はとても大きく、かなり高次の存在である事が、その光とパワーからも

伝わってきます。

「私は、かつてこのユニバースに、叡智ある種族を作り出しました。

それがリラ星のもととなる種族です。

彼らは自分達が活動するための場所を探していくつかの星を渡り歩きました。

そしてたどり着いたのがリラ星でした。

彼らは、リラ星でとても高度な文明を築き、自分達を進化させていきました。

そして、いくつかの星を選び出し、その星に移住しながら、叡智ある存在達を新たに生みだしていったのです。

リラ星の人達は、とても高度な倫理観と愛を持っていました。

たとえ、文明がさほど進んでいない星の人達であっても、その星の人々を尊重し、その文化を大切に扱いました。

彼らは、多くの星の種族の人達と共に、多くの新たな種族を生みだし、この宇宙に多様性をもたらしました。

私はそのようなリラ星の人々の働きをずっと見守っています。

リラ星の人達に移り住んだアンドロメダ銀河やオリオン星雲の人達もそうですが、あなた方が助けてプレアデイス星団に運んだ人達の活動も支えています。

私の光は、叡智の源であり、叡智ある種族を生みだしてきた根源の光です。」

メテウスは、私達に大きな宇宙の銀河や星団の姿を見せてくれました。

「皆さんが住む宇宙の中では、叡智ある種族の源としてリラの種族を生みだしました。

その種族が、いくつかの種族にも分かれて、このユニバースを支えるマスターや女神達

になっていったのです。

私は、リラの種族の根源であるリラ星の人達だけでなく、多くの種族にも光を送ってきました。

もちろんこのリラの種族のもととなる民族も存在しています。

それはこのユニバースだけでなく、他の宇宙にも私は多くの叡智ある種族を作り出しているからです。

この多次元の宇宙には、皆さんが知らない宇宙が無数に存在しています。

その1つ1つの宇宙が、皆さんの宇宙と同じように、多くの銀河や星団で構成され、その中に数多くの星々が存在しています。

その中には、皆さんのように、叡智ある存在達も数多く存在し、宇宙の進化のために働いています。

また、叡智ある存在のように意識が高まっていない存在達も数多く存在し、進化していく時を待っているのです。」

PART2 ブラフマンの意図の中から宇宙が生まれる

私は、リラの種族と鳳凰族などの関係を尋ねました。

「リラ族と鳳凰族などの宇宙のマスター種族は、同じ次元に生きているのではありません。

リラ族は、この宇宙の物理次元に存在し、宇宙の物理的な世界の進化をにないます。

鳳凰族やワシ族、オーロラ族は、この宇宙の創造や運営を手伝うグループで、スピリチュアルな次元に存在しています。

彼らによってこの宇宙が管理され維持されていますが、彼らも全てブラフマンから生まれています。

それは私ではなく、他の神の働きによるものですが、私達は常に協力し合っています。

そのために、鳳凰族やワシ族のマスター達が、物理次元にいるリラ族の様な種族と協力して、新たな種族を生みだし、さらに叡智の高いマスターや種族を生み出す事が良くあります。

鳳凰族やワシ族も、この宇宙がより複雑になり高次の働きを持つようになったために、ブラフマンの意図の中から生み出されました。」

私は、この偉大なるメテウスと根源の創造主ブラフマンの関係を尋ねました。

「私は偉大なる創造主ブラフマンの一部です。

ブラフマンの思考する働きや考えそのものが私を生みだしました。

ブラフマンが、自らが作り出した宇宙を楽しみ進化させるために、創造を行う能力と意思を持つ存在達を作ろうという考えが浮かんだ時に、私（メテウス）が生まれました。

私はブラフマンの考えのもとに、叡智ある存在のモデルを作り、一つの宇宙の中にそのモデルを投じました。

そして、ある特定の星でそのモデルとなる存在が育っていき、一つの文明を形作っていくのを見守りました。

私はいくつものモデルを作り、様々な宇宙の星々でその試みを繰り返し行いました。

やがて私達にとって満足のいく種族のモデルが出来上がってきたのです。

それが、リラ星の人々の元となる種族でした。

私は、その種族をもとに、あなた方が住む宇宙にも、叡智ある存在達を生み出すために、新たな種族を作り投入したのです。それがリラ星の種族なのです。」

私は、あなた以外にもブラフマンから直接生まれた神々を見たいのですが、とためらいがちに聞きました。

メテウスは、私のそのような気持ちを察してか、やさしく笑うと自らの光をさらに輝かせ仲間を呼びます。

すると2人の巨大な神々が現れました。

一人は、青い光をともなった神で、星々を創造し次元を作り出すマスターである事を伝えてきました。

もう一人は時と空間を創造するマスターのようです。

この宇宙の成り立ちを考えれば、この宇宙は彼らによって創造された事に間違いがないようです。

彼らも宇宙を創造したいというブラフマンの意図から生まれた神々です。

彼らが私達に語ります。

「私達は、皆さんにいつも光を送っています。どうかその光を、皆さんの意識でジャッジ（判断）しないで受け取り、自らをエンパワーメントしてください。

皆さんの意識では、この宇宙の働きのすべてを理解する事は不可能ですので、どのような光がどのような作用をもたらすか、正しく判断できません。

しかし、私達は、皆さんに対して愛をもって、最も適切な光を送っています。

私達を信頼し、私達の光と一つになり、私達の意識を分かち合ってください。

そして、1人1人がリーダーシップをもって、多くの人達と私達の光が分かち合えるように、私達の光を伝えていってください。宇宙の光はとても高次元な光ですが、皆さんと分かち合ってください。」

私は、このブラフマンから生まれた偉大なるゴッド達の光を、ユニバーサル・パレスへと繋ぎます。

PART3 物理的な世界とスピリチュアルな世界を創造するゴールドボックス

そのあと、私達は、メテウス達の光が分かち合われている場所へと連れていかれました。

その世界に入ると、恐竜達がたくさん歩いている姿が見えます

私は突然の展開で驚いたのですが、もともと恐竜達は、星の自然生態系を作るための仕事をしている存在です。

私は最初に恐竜のマスターから、ピンクボックスと呼ばれる星の自然生態系を作るための魔法の箱をもらいました。

この箱は、荒れ果てた星や再生を必要とする星の上で箱を開くと、短時間のうちに星の創造の過程が行われ自然豊かな星が生まれるという箱です。

恐竜達が行う星の自然生態系の創造の過程がこの中に凝縮しているようです。

次に私は、星を創造する女神からこのピンクボックスをさらにバージョンアップしてもらい、シルバーボックスを作ってもらいました。

このシルバーボックスは、星に自然生態系を整えるだけでなく、叡智ある存在達が生れるように、より高い次元まで整える事ができるエネルギーが凝縮されている箱です。

星々や次元を創造するマスターが語ります。「皆さんの働きは、とても素晴らしいものです。

これから皆さんの宇宙がとても大きく変わっていきます。

そのために、あなたの創造のボックスもさらに進化させなければなりません。

星の物理次元を創造するだけでなく、マスターやフェアリー達も共に存在できるようなスピリチュアル次元をともなった星の創造ができるようなエネルギーを持った箱を作りましょう。」

そういうとブラフマンから生み出されたメテウス達は、円を作りそこに光を集めてきます。

彼らの中心で大きな光が生みだされていきます。

光の中には、星々が生れてくる様子や海や山ができてくる様子、緑が茂り動物達が生れてくる様子も、早回しの映像を見るようにどんどん移り変わって見えてきます。

最後にひときわ大きな光が輝きます。

するとそこに光輝く一つの箱が生れました。星々の物理次元だけでなくスピリチュアル次元まで創造していくゴールドボックスの誕生です。

私はこの3人のブラフマンのマスターによって作り出された光を、ユニバーサル・パレスに導き、そこから各銀河や星団のマスターをとおして宇宙の隅々にまで満たしてもらいます。

私達が住むユニバース全体が驚くほどの光に満たされていきます。